

# 本書の構成

---

## 本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくための注意事項や、本書の表記について説明しています。必ずお読みください。

本書をお読みになる前に

---

## 第1章 各部名称

各部の名称と働きについて説明しています。

1

各部名称

---

## 第2章 ハードウェア

本パソコンを使用するうえでの基本操作や、本パソコンに取り付けられている（取り付け可能な）周辺機器の基本的な取り扱い方について説明しています。

2

ハードウェア

---

## 第3章 BIOS

BIOS セットアップというプログラムについて説明しています。また、本パソコンのデータを守るためにパスワードを設定する方法についても説明しています。

3

BIOS

---

## 第4章 技術情報

本パソコンの仕様などを記載しています。

4

技術情報

# 目次

<b>本書をお読みになる前に</b>	5
本書の表記	5
商標および著作権について	7

## 第1章 各部名称

<b>1 各部の名称と働き</b>	10
パソコン本体前面	10
パソコン本体上面	12
パソコン本体右側面	13
パソコン本体左側面	14
パソコン本体背面	16
パソコン本体下面	17
ポートリプリケータ	19
<b>2 状態表示 LCDについて</b>	21
<b>3 セキュリティボタンについて</b>	23

## 第2章 ハードウェア

<b>1 パソコンの疲れにくい使い方</b>	26
ディスプレイ	27
使用時間	27
入力機器	27
机と椅子	27
作業スペース	27
<b>2 周辺機器を取り付ける前に</b>	28
インターフェースのご使用について	28
取り扱い上の注意	28
<b>3 ポインティングデバイスについて</b>	30
フラットポイントについて	30
マウスについて	33
<b>4 キーボードについて</b>	38
OADG キーボード	38
テンキーボード	41
<b>5 バッテリについて</b>	43
バッテリを充電する	43
バッテリで運用する	44
バッテリ残量を確認する	45
取り扱い上の注意	47
バッテリパックを交換する	48

<b>6 ポートリプリケータについて</b>	50
ポートリプリケータを取り付ける	50
ポートリプリケータを取り外す	51
<b>7 メモリについて</b>	52
メモリを取り付ける／取り外す	52
<b>8 セキュリティボタン</b>	57
セキュリティボタンについて	57
パスワードを設定する	57
セキュリティを解除する	58
パスワードを変更する／削除する	59
<b>9 指紋センサー</b>	60
指のスライドのさせ方	60
<b>10 FeliCa 対応リーダ／ライタ</b>	63
使用上のご注意	63
概要	64
作業の流れ	64
FeliCa 対応 IC カードの操作のしかた	65
<b>11 PC カードについて</b>	66
取り扱い上の注意	66
PC カードをセットする	66
PC カードを取り出す	67
<b>12 コンパクトフラッシュカードについて</b>	70
取り扱い上の注意	70
コンパクトフラッシュカードをセットする	70
コンパクトフラッシュカードを取り出す	72
<b>13 プリンタについて</b>	75
接続について	75
<b>14 外部ディスプレイについて</b>	76
接続について	76
<b>15 ハードウェアのお手入れ</b>	78
パソコン本体のお手入れ	78
液晶ディスプレイのお手入れ	78
キーボードのお手入れ	79
マウスのお手入れ	79

## 第3章 BIOS

<b>1 BIOS セットアップとは</b>	82
<b>2 BIOS セットアップの操作のしかた</b>	83
BIOS セットアップを起動する	83
設定を変更する	84
各キーの役割	85
BIOS セットアップを終了する	86

<b>3 メニュー詳細</b>	87
メインメニュー	87
詳細メニュー	88
セキュリティメニュー	91
起動メニュー	93
情報メニュー	94
終了メニュー	94
<b>4 BIOS のパスワード機能を使う</b>	95
パスワードの種類	95
パスワードを設定する	95
パスワードを忘れてしまったら	97
パスワードを変更／削除する	98
<b>5 BIOS が表示するメッセージ一覧</b>	99
メッセージが表示されたときは	99
メッセージ一覧	100
<b>第4章 技術情報</b>	
<b>1 仕様一覧</b>	106
本体仕様	106
<b>2 コネクタのピン配列と信号名</b>	109
<b>索引</b>	111

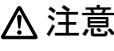
# 本書をお読みになる前に

## 本書の表記

本書をお読みになる前に

### ■ 警告表示

本書では、いろいろな絵表示を使っています。これは本製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。

	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
	○で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

### ■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
 <b>重要</b>	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 <b>POINT</b>	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
→	参照ページや参照マニュアルを示しています。

### ■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】+【F3】キー、【Shift】+【↑】キーなど

## ■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例： 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」をポイントし、「Internet Explorer」をクリックする操作



「スタート」ボタン→「プログラム」→「Internet Explorer」の順にクリックします。

## ■ BIOS セットアップの表記

本文中の BIOS セットアップの設定手順において、各メニュー やサブメニュー または項目を、「－」(ハイフン) でつなげて記述する場合があります。また、設定値を「:」(コロン) の後に記述する場合があります。

例： 「メイン」メニューの「言語 (Language)」の項目を「日本語 (JP)」に設定します。



「メイン」－「言語 (Language)」: 日本語 (JP)

## ■ 画面例およびイラストについて

表記されている画面およびイラストは一例です。お使いの機種やモデルによって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、このマニュアルに表記されているイラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

## ■ カスタムメイドオプションについて

本文中の説明は、すべて標準仕様に基づいて記載されています。

そのため、カスタムメイドで選択のオプションを取り付けている場合、メモリ容量などの記載が異なります。ご了承ください。

## ■ 製品の呼び方

本文中の製品名称を、次のように略して表記します。

なお、本書ではお使いの機種、または OS 以外の情報もありますが、ご了承ください。

製品名称	本文中の表記
FMV-TC8210	本パソコン／パソコン本体
Microsoft® Windows® XP Embedded	Windows XP Embedded ／ Windows
FeliCa 対応非接触 IC カード (SMARTACCESS 専用)	FeliCa 対応 IC カード
Sony Felica リーダー／ライターソフトウェア	Felica リーダー／ライターソフトウェア
Citrix Presentation Server™	Citrix Presentation Server

## ■ モデルの表記

本文中のモデルを、次のように略して表記します。

なお、本書ではお使いのモデル以外の情報もありますが、ご了承ください。

モデル	本文中の表記
ワイヤレス LAN（無線 LAN）搭載	ワイヤレス LAN 搭載モデル
FeliCa 対応リーダ／ライタ搭載	FeliCa 対応リーダ／ライタ搭載モデル
スマートカードホルダー添付	スマートカードホルダー添付モデル

## ■ お問い合わせ先／URL

本文中に記載されているお問い合わせ先やインターネットの URL アドレスは 2005 年 10 月現在のものです。変更されている場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」へお問い合わせください（→『取扱説明書』）。

## 商標および著作権について

Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。  
インテル、Intel および Celeron は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。

Phoenix は、米国 Phoenix Technologies 社の登録商標です。

FeliCa は、ソニー株式会社の登録商標です。

FeliCa は、ソニー株式会社が開発した非接触 IC カードの技術方式です。

Citrix、MetaFrame・Citrix Presentation Server は、Citrix System, Inc. の米国あるいは、その他の国における登録商標です。  
Portshutter は、株式会社富士通ソフトウェアテクノロジーズの商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2005

画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

## Memo

# 1

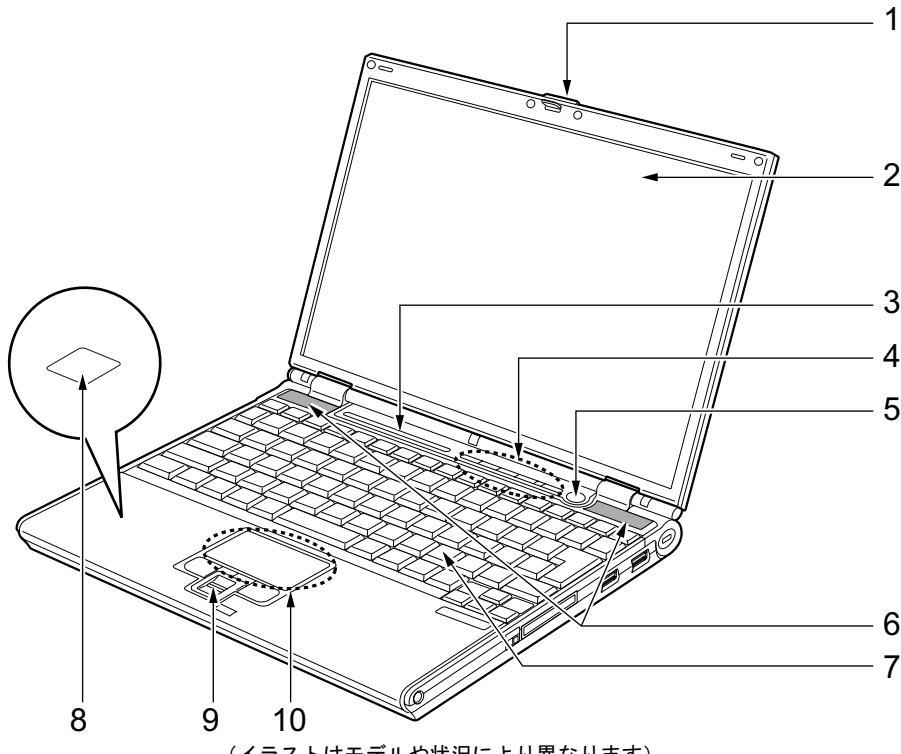
## 第1章 各部名称

各部の名称と働きについて説明しています。

1 各部の名称と働き .....	10
2 状態表示 LCD について .....	21
3 セキュリティボタンについて .....	23

# 1 各部の名称と働き

## パソコン本体前面



(イラストはモデルや状況により異なります)

### 1 ラッチ

液晶ディスプレイが不用意に開かないようにロックします。

液晶ディスプレイを開くときは、押しながらロックを外します。

### 2 液晶ディスプレイ

本パソコンの画面を表示します。

#### POINT

##### ▶ 液晶ディスプレイの特性について

以下は液晶ディスプレイの特性です。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

- ・液晶ディスプレイは非常に精度の高い技術で作られておりますが、画面の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります（有効ドット数の割合は99.99%以上です。有効ドット数の割合とは「対応するディスプレイの表示しうる全ドット数のうち、表示可能なドット数の割合」を示しています）。
- ・本パソコンで使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。

- ・長時間同じ表示を続けると残像となることがあります。残像は、しばらく経つと消えます。この現象を防ぐためには、省電力機能を使用してディスプレイの電源を切るか、スクリーンセーバーの使用をお勧めします。
- ・表示する条件によってはムラおよび微少な斑点が目立つことがあります。

### 3 状態表示 LCD

本パソコンの状態が表示されます。

「各部名称」－「状態表示 LCDについて」(→ P.21)

### 4 セキュリティボタン

アプリケーション「セキュリティボタン」でパスワードを設定することにより、ユーザー認証を行うことができます。

「ハードウェア」－「セキュリティボタン」(→ P.57)

### 5 電源ボタン (○)

パソコン本体の電源を入れたり、スタンバイ（中断）／レジューム（回復）させるためのボタンです。

#### POINT

- ▶ 電源ボタンを4秒以上押さないでください。  
電源ボタンを4秒以上押し続けると、パソコンの電源が切れてしまいます。

### 6 スピーカー

本パソコンの音声が出力されます。

『ソフトウェアガイド』の「動作環境の設定」－「音量の設定」

#### 重要

- ▶ 音量は、スピーカーから聞こえる音がひづまない範囲に設定や調整をしてください。スピーカーが故障する原因となります。

### 7 キーボード

文字を入力したり、パソコン本体に命令を与えます。

「ハードウェア」－「キーボードについて」(→ P.38)

### 8 FeliCa 対応リーダ／ライタアンテナ (FeliCa 対応リーダ／ライタ搭載モデルのみ)

セキュリティ情報を格納した、非接触 IC カード技術方式 FeliCa 対応の IC カードをタッチすることで、ユーザー認証などを行うことができます。

「ハードウェア」－「FeliCa 対応リーダ／ライタ」(→ P.63)

### 9 指紋センサー

指紋を識別してユーザー認証を行うことができます(→「ハードウェア」－「指紋センサー」(→ P.60))。

また、スクロール機能を使って画面を上下にスクロールさせることもできます。

「ハードウェア」－「ポインティングデバイスについて」(→ P.30)

#### POINT

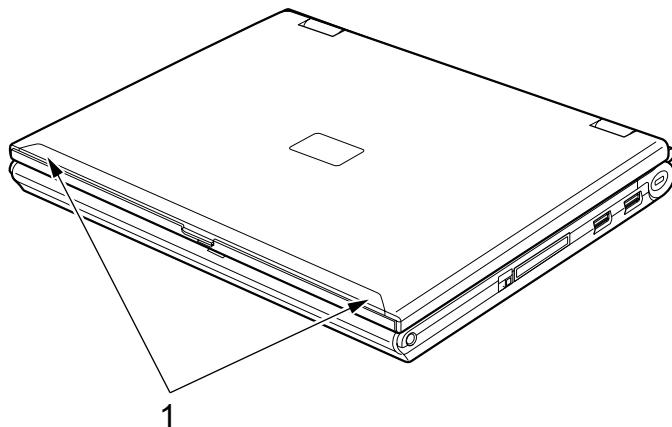
- ▶ お使いになるソフトウェアによっては、指紋センサーのスクロール機能による画面のスクロールができない場合があります。

### 10 フラットポイント

マウス poing タを操作します。

「ハードウェア」－「ポインティングデバイスについて」(→ P.30)

## パソコン本体上面



1

### 1 内蔵ワイヤレス LAN アンテナ（ワイヤレス LAN 搭載モデルのみ）

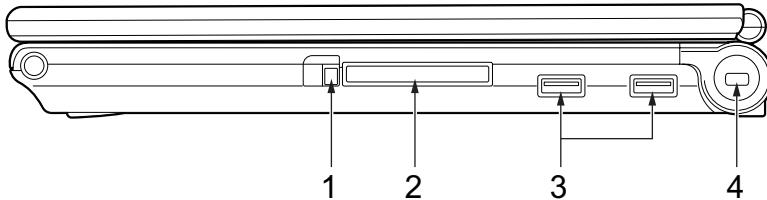
ワイヤレス LAN 用のアンテナが内蔵されています。

本パソコンの使用中、特にワイヤレス LAN で通信中はアンテナ部分に極力触れないでください。また、本パソコンを設置する場合には、周囲が金属などの導体（電気を通しやすいもの）でできている場所は避けてください。通信性能が低下し、設置環境によっては通信できなくなることがあります。

#### POINT

- ▶ ワイヤレス LAN については、『FMV マニュアル』内の「カスタムメイドオプション」にあるマニュアルをご覧ください。

## パソコン本体右側面



1

各部名称

### 重要

- 各コネクタに周辺機器を接続する場合は、コネクタの向きを確めて、まっすぐ接続してください。

#### 1 コンパクトフラッシュカード取り出しボタン

コンパクトフラッシュカードを取り出すときに押します。

「ハードウェア」 - 「コンパクトフラッシュカードを取り出す」 (→ P.72)

#### 2 コンパクトフラッシュカードスロット (CF CARD)

別売のコンパクトフラッシュカードをセットするためのスロットです。

「ハードウェア」 - 「コンパクトフラッシュカードをセットする」 (→ P.70)

### POINT

- ご購入時には、コンパクトフラッシュカードスロットに、ダミーカードがセットされています。

#### 3 USB コネクタ (×2)

USB 接続に対応したプリンタなど、USB 規格の周辺機器を接続するためのコネクタです。

2 ポートあります。USB 規格の周辺機器をどちらのポートに接続してもかまいません。また、ポートリプリケータ接続時にも、お使いになれます。

USB2.0 に準拠しているため、USB1.1 および USB2.0 に対応した機器が接続できます。

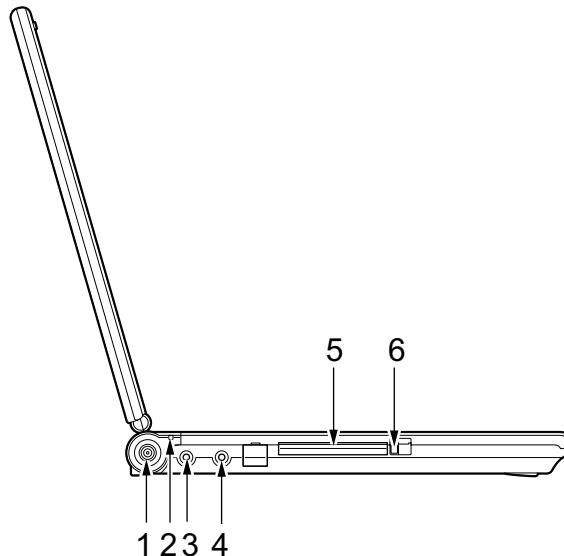
### POINT

- ハブなどを経由してUSB2.0に対応した機器を接続した場合、ハブの性能によって接続した機器の性能が低下することがあります。

#### 4 盗難防止用ロック取り付け穴

市販の盗難防止用ケーブルを接続することができます。

## パソコン本体左側面



### 重要

▶ 各コネクタに周辺機器を接続する場合は、コネクタの向きを確かめて、まっすぐ接続してください。

#### 1 DC-IN コネクタ (—)

添付の AC アダプタを接続するためのコネクタです。

#### 2 バッテリランプ

AC アダプタを接続しているときに点灯します。

バッテリ充電時はオレンジ色に点灯し、満充電時は緑色に点灯します。

#### 3 マイク・ラインイン兼用端子 (φ)

市販のマイクを接続し、音声（モノラル）を録音するための端子です（外径 3.5mm のミニプラグに対応）。

ただし、市販されているマイクの一部の機種（ダイナミックマイクなど）には、使用できないものがあります。ご購入前に確認してください。

また、設定を変更することにより、ラインイン端子として使用することもできます。

設定を変更する方法については、『ソフトウェアガイド』の「動作環境の設定」－「ヘッドホン・ラインアウト兼用端子／マイク・ラインイン兼用端子の機能を切り替える」をご覧ください。

#### 4 ヘッドホン・ラインアウト兼用端子 (Ω)

市販のヘッドホンを接続するための端子です（外径 3.5mm のミニプラグに対応）。ただし、形状によっては取り付けられないものがあります。ご購入前に確認してください。

また、設定を変更することにより、ラインアウト端子として使用することもできます。

設定を変更する方法については、『ソフトウェアガイド』の「動作環境の設定」－「ヘッドホン・ラインアウト兼用端子／マイク・ラインイン兼用端子の機能を切り替える」をご覧ください。

## ⚠ 注意



- ヘッドホンやイヤホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないでください。  
耳を刺激するような大きな音量で聞くと、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。



- 電源を入れたり切ったりする前には音量を最小にしておいてください。また、ヘッドホンやイヤホンをしたまま、電源を入れたり切ったりしないでください。  
突然大きな音や刺激音が出て、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

### 5 PC カードスロット (■)

別売の PC カードをセットするためのスロットです。

「ハードウェア」 - 「PC カードをセットする」 (→ P.66)

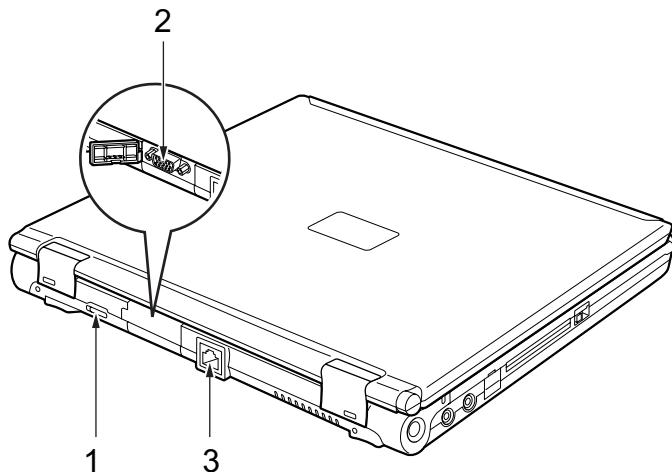
### 6 PC カード取り出しボタン

PC カードを取り出すときに押します。

「ハードウェア」 - 「PC カードを取り出す」 (→ P.67)

## パソコン本体背面

---



### 1 ワイヤレススイッチ（ワイヤレス LAN 搭載モデルのみ）

ワイヤレス LAN による通信の ON と OFF を切り替えます。

病院や飛行機内、その他電子機器使用の規制がある場所では、スイッチを OFFにしてください。

#### POINT

- ▶ ワイヤレス LAN については、『FMV マニュアル』内の「カスタムメイドオプション」にあるマニュアルをご覧ください。

### 2 外部ディスプレイコネクタ（□）

別売のアナログディスプレイなど、外部ディスプレイを接続するためのコネクタです。ポートリプリケータ接続時には、ポートリプリケータの外部ディスプレイコネクタをお使いください。

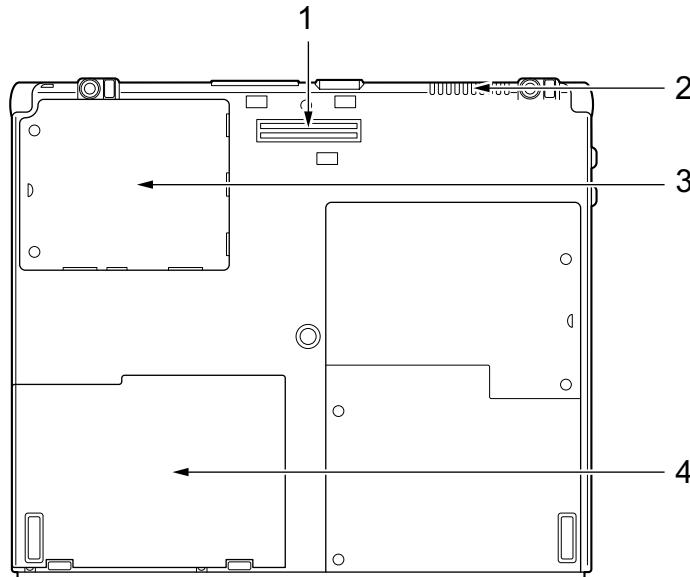
「ハードウェア」－「外部ディスプレイについて」（→ P.76）

### 3 LAN コネクタ（昌吉）

LAN ケーブルを接続するためのコネクタです。

ポートリプリケータ接続時には、ポートリプリケータの LAN コネクタをお使いください。  
『ソフトウェアガイド』の「動作環境の設定」－「LAN について」

## パソコン本体下面



各部名称

### 1 ポートトリプリケータ接続コネクタ

ポートトリプリケータを接続するためのコネクタです。

「ハードウェア」 - 「ポートトリプリケータについて」 (→ P.50)

### 2 排気孔

パソコン本体内部の熱を外部に逃がすためのものです。

パソコンの電源を入れると、内部のファンが数秒間回転します。また、パソコン本体内部の温度が高くなると内部のファンが回転し、熱が放出されます。このため、起動時や動作中にファンによる回転音が発生しますが、パソコンの冷却のためであり、異常ではありません。

## ⚠ 注意



- 排気孔をふさがないでください。  
内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

## ⚠ 重要

- ▶ 排気孔からは熱風が出ます。排気孔付近には手を触れないでください。
- ▶ 排気孔の近くに物を置かないでください。排気孔からの熱で、排気孔の近くに置かれた物が熱くなることがあります。

### 3 拡張 RAM モジュールスロット

本パソコンのメモリが取り付けられています。

取り付けられているメモリを交換して、メモリを増やすこともできます。

「ハードウェア」 - 「メモリについて」 (→ P.52)

#### 4 内蔵バッテリパック

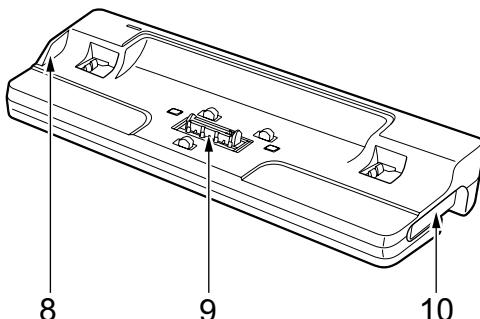
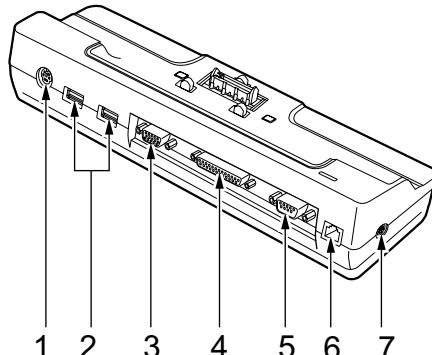
内蔵バッテリパックが装着されています。

「ハードウェア」—「バッテリパックを交換する」(→ P.48)

## ポートリプリケータ

### 重要

- ▶ カスタムメイドの選択によりポートリプリケータを添付しています。



### 重要

- ▶ 各コネクタに周辺機器を接続する場合は、コネクタの向きを確かめて、まっすぐ接続してください。
- ▶ ポートリプリケータ接続時には、パソコン本体の LAN コネクタ、外部ディスプレイコネクタはお使いになれません。

#### 1 拡張キーボード／マウスコネクタ

PS/2 マウスや PS/2 キーボードを接続するためのコネクタです。

「ハードウェア」 - 「テンキーボード」 (→ P.41)

「ハードウェア」 - 「マウスについて」 (→ P.33)

#### 2 USB コネクタ (•□)

USB 接続に対応したプリンタなど、USB 規格の周辺機器を接続するためのコネクタです。2 ポートあります。パソコン本体とあわせて 4 ポートお使いになれます。

USB2.0 に準拠しているため、USB1.1 および USB2.0 に対応した機器が接続できます。

### POINT

- ▶ ハブなどを経由して USB2.0 に対応した機器を接続した場合、ハブの性能によって接続した機器の性能が低下することがあります。

**3 外部ディスプレイコネクタ (□)**

アナログディスプレイなど、外部ディスプレイを接続するためのコネクタです。

「ハードウェア」—「外部ディスプレイについて」(→ P.76)

**4 パラレルコネクタ (□)**

プリンタなどを接続するためのコネクタです。

「ハードウェア」—「プリンタについて」(→ P.75)

**5 シリアルコネクタ (□)**

RS-232C 準拠の機器を接続するためのコネクタです。

**6 LAN コネクタ (□)**

LAN ケーブルを接続するためのコネクタです。

『ソフトウェアガイド』の「動作環境の設定」—「LAN について」

**7 DC-IN コネクタ (—)**

添付の AC アダプタを接続するためのコネクタです。

**8 DC-IN コネクタ接続防止フラップ**

ポートリプリケータ接続時にはパソコン本体の DC-IN コネクタはお使いになれません。

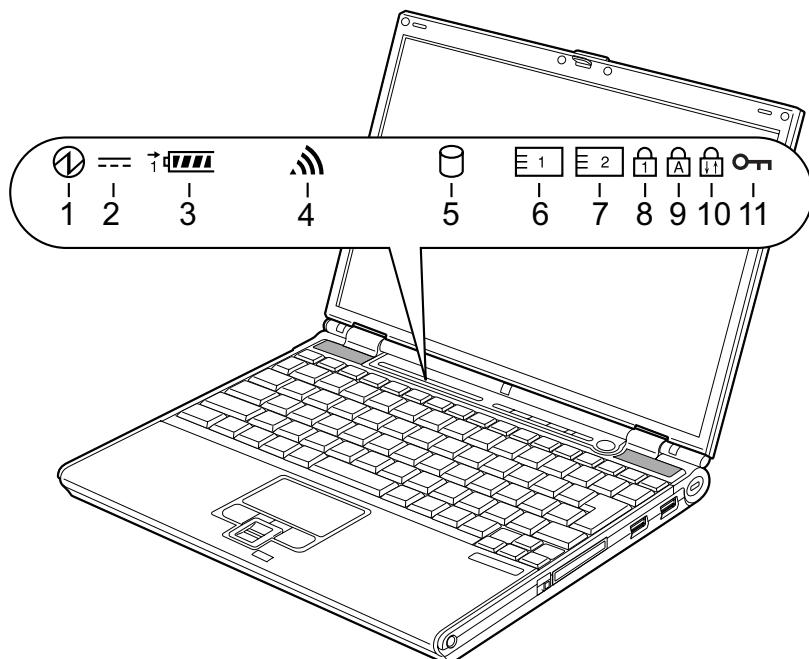
**9 接続コネクタ**

パソコン本体のポートリプリケータ接続コネクタに接続します。

**10 ポートリプリケータ取り外しレバー**

ポートリプリケータをパソコン本体から取り外す場合に使用します。

## 2 状態表示 LCDについて



(イラストはモデルや状況により異なります)

1

各部名称

### POINT

- ▶ 電源を切っている場合は、充電中を除いて状態表示 LCD の全表示が消灯します。

#### 1 電源表示 (①)

本パソコンが動作状態のときに点灯し、スタンバイのときに点滅します。

#### 2 AC アダプタ表示 (==)

AC アダプタから電源が供給されているときに点灯します。

#### 3 バッテリ装着表示 (■)

バッテリが取り付けられているときに点灯します。

#### ・バッテリ充電表示 (→)

バッテリを充電しているときに点灯します。

「ハードウェア」—「バッテリを充電する」(→ P.43)

#### ・バッテリ残量表示 (||||)

バッテリの残量を表示します。

「ハードウェア」—「バッテリ残量を確認する」(→ P.45)

#### 4 ワイヤレス LAN 表示 (Wi-Fi)

ワイヤレススイッチが ON のときに点灯します。

#### 5 内蔵フラッシュメモリアクセス表示 (○)

内蔵フラッシュメモリにアクセスしているときに点灯します。

## POINT

- 内蔵フラッシュメモリアクセス表示が点灯中に、電源ボタンを操作すると、内蔵フラッシュメモリのデータが壊れるおそれがあります。

### 6 PC カードアクセス表示 (E1)

PC カードにアクセスしているときに点灯します。

### 7 コンパクトフラッシュカードアクセス表示 (E2)

コンパクトフラッシュカードにアクセスしているときに点灯します。

### 8 Num Lock 表示 (F1)

キーボードがテンキー モードのときに点灯します。【NumLk】キーを押して、テンキー モードの設定と解除を切り替えます。

「ハードウェア」 - 「キーボードについて」 (→ P.38)

### 9 Caps Lock 表示 (A)

アルファベットの大文字入力 モードのときに点灯します。

【Shift】 + 【Caps Lock】キーを押して、アルファベットの大文字／小文字の入力 モードを切り替えます。

「ハードウェア」 - 「キーボードについて」 (→ P.38)

### 10 Scroll Lock 表示 (F11)

画面をスクロールしないように設定（スクロールロック）したときに点灯します。

【Fn】 + 【NumLk】キーを押して、スクロールロックの設定と解除を切り替えます。

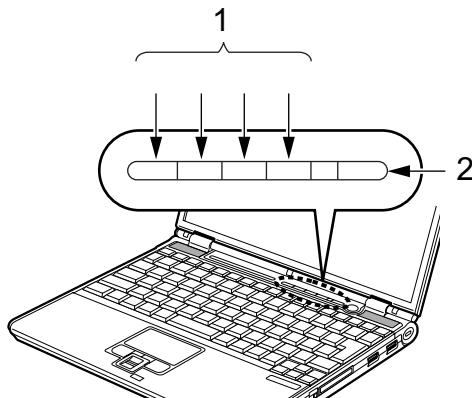
点灯中の動作は、アプリケーションに依存します。

### 11 セキュリティ表示 (O-PI)

アプリケーション「セキュリティボタン」でパスワードを設定している場合、パスワード要求時に点灯します。パソコン本体の電源を入れたときやレジューム時にセキュリティ表示が点灯したらパスワードを入力してください。

### 3 セキュリティボタンについて

セキュリティボタンには、数字ボタンと Enter ボタンがあります。



1  
各部名称

#### 1 数字ボタン

パスワードを入力するときに押します。

#### 2 Enter ボタン

入力したパスワードを確定してセキュリティを解除するときに押します。

#### POINT

- セキュリティボタンについては「ハードウェア」－「セキュリティボタン」(→ P.57) をご覧ください。

## Memo

## 第2章

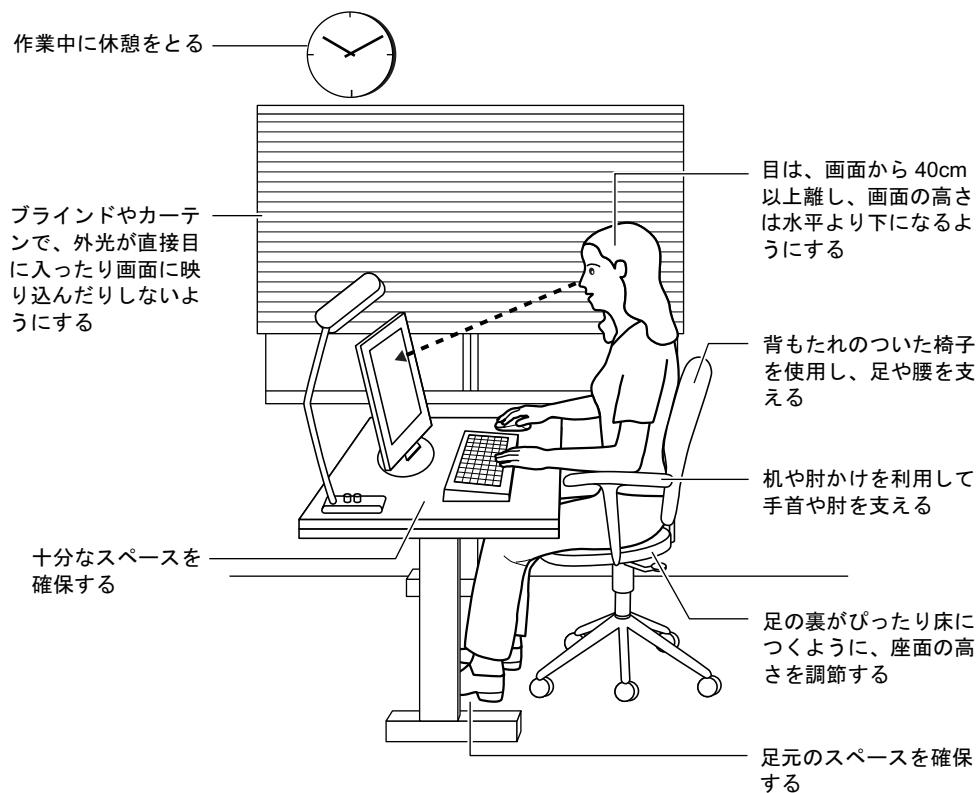
# ハードウェア

本パソコンを使用するうえでの基本操作や、本パソコンに取り付けられている（取り付け可能な）周辺機器の基本的な取り扱い方について説明しています。

1 パソコンの疲れにくい使い方 .....	26
2 周辺機器を取り付ける前に .....	28
3 ポインティングデバイスについて .....	30
4 キーボードについて .....	38
5 バッテリについて .....	43
6 ポートトリプリケータについて .....	50
7 メモリについて .....	52
8 セキュリティボタン .....	57
9 指紋センサー .....	60
10 FeliCa 対応リーダ／ライタ .....	63
11 PC カードについて .....	66
12 コンパクトフラッシュカードについて .....	70
13 プリンタについて .....	75
14 外部ディスプレイについて .....	76
15 ハードウェアのお手入れ .....	78

# 1 パソコンの疲れにくい使い方

パソコンを長時間使い続ければ、目が疲れ、首や肩が痛くなり、腰が痛くなることがあります。その主な原因は、長い時間同じ姿勢でいることや、近い距離で画面やキーボードを見続けることです。パソコンをお使いの際は姿勢や環境に注意して、疲れにくい状態で操作しましょう。



## POINT

- ▶ 富士通では、独立行政法人産業医学総合研究所の研究に協力し、その成果が「パソコン利用のアクション・チェックポイント」としてまとめられています。  
詳しくは、富士通ホームページ (<http://design.fujitsu.com/jp/universal/ergo/vdt/>) の解説をご覧ください。

## ディスプレイ

- 外光が直接目に入ったり画面に映り込んだりしないように、窓にブラインドやカーテンを取り付けたり、画面の向きや角度を調整しましょう。
- 画面の輝度や文字の大きさなども見やすく調整しましょう。
- ディスプレイの上端が目の位置と同じかやや低くなるようにしましょう。
- ディスプレイの画面は、顔の正面にくるように角度を調整しましょう。
- 目と画面の距離は、40cm 以上離すようにしましょう。

## 使用時間

- 1 時間以上続けて作業しないようにしましょう。続けて作業をする場合には、1 時間に 10 ~ 15 分程度の休憩時間をとりましょう。また、休憩時間までの間に 1 ~ 2 分程度の小休止を 1 ~ 2 回取り入れましょう。

## 入力機器

- キーボードやマウスは、肘の角度が 90 度以上になるようにして使い、手首や肘は机、椅子の肘かけなどで支えるようにしましょう。

## 机と椅子

- 高さが調節できる机や椅子を使いましょう。調節できない場合は、次のように工夫しましょう。
  - ・机が高すぎる場合は、椅子を高く調節しましょう。
  - ・椅子が高すぎる場合は、足置き台を使用し、低すぎる場合は、座面にクッションを敷きましょう。
- 椅子は、背もたれ、肘かけ付きを使用しましょう。

## 作業スペース

- 机上のパソコンの配置スペースと作業領域は、十分確保しましょう。  
スペースが狭く、腕の置き場がない場合は、椅子の肘かけなどを利用して腕を支えましょう。

## 2 周辺機器を取り付ける前に

### インターフェースのご使用について

- 本製品では、あらゆる周辺機器の動作を保証するものではありません。ご使用になる周辺機器については、ご購入元にご確認ください。
- 指紋センサーをお使いになる場合は、別売のバイオ認証装置(Secure Login Box)が必要です。
- FeliCa 対応リーダ／ライタ搭載モデル、またはスマートカードホルダー添付モデルをお使いの場合、添付の CD-ROM 内にあるドライバおよびアプリケーションは使用しないでください。

### 取り扱い上の注意

ここでは周辺機器を接続する前に、予備知識として知っておいていただきたいことを説明します。

#### ● 周辺機器によっては設定作業が必要です

パソコンの周辺機器の中には、接続するだけでは正しく使えないものがあります。このような機器は、接続した後で設定作業を行う必要があります。たとえば、プリンタや PC カードを使うには、取り付けた後に「ドライバのインストール」という作業が必要です。また、メモリなどのように、設定作業がいらない機器もあります。周辺機器は、本書をよくご覧になり、正しく接続してください。

#### ● マニュアルをご覧ください

ケーブル類の接続は、本書をよく読み、接続時に間違いないようにしてください。誤った接続状態で使用すると、本パソコンおよび周辺機器が故障する原因となることがあります。

本書で説明している周辺機器の取り付け方法は一例です。本書とあわせて周辺機器のマニュアルも必ずご覧ください。

#### ● 純正品をお使いください

弊社純正のオプション機器については、ご購入元にお問い合わせください。

他社製品につきましては、本パソコンで正しく動作するかどうか、保証いたしかねます。他社製品をお使いになる場合は、製造元のメーカーにお問い合わせくださいようお願いいたします。

#### ● ACPI に対応した周辺機器をお使いください

本パソコンは ACPI モードに設定されています。ACPI モードに対応していない周辺機器をお使いの場合、省電力機能などが正しく動作しない場合があります。

また、本パソコンでは、低レベルのスタンバイ (ACPI S1) をサポートしていません。お使いになる周辺機器が低レベルのスタンバイのみサポートしている場合、本パソコンをスタンバイ状態にしないでください。

● 周辺機器の電源は、本パソコンの電源を入れる前に入れてください

電源を入れて使う周辺機器を取り付けた場合は、周辺機器の電源を入れてから本パソコンの電源を入れてください。また、周辺機器の電源を切るときは、本パソコンの電源を切つてから周辺機器の電源を切ってください。

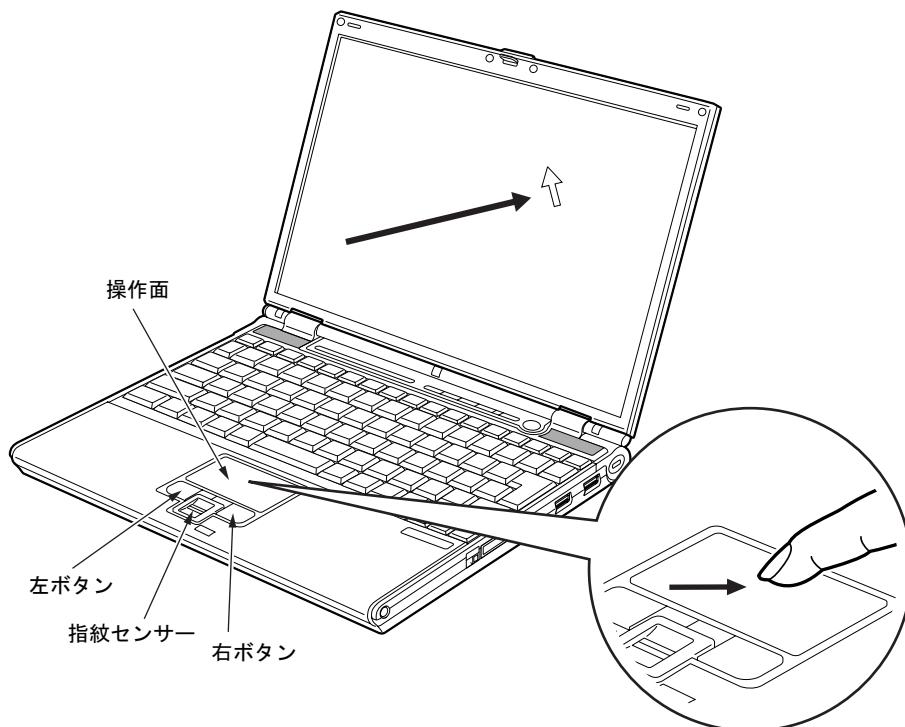
 **重要**

- ▶ コネクタに周辺機器を取り付ける場合は、コネクタの向きを確認し、まっすぐ接続してください。
- ▶ 複数の周辺機器を取り付ける場合は、1つずつ取り付けて設定をしてください。

### 3 ポインティングデバイスについて

#### フラットポイントについて

フラットポイントは、指先の操作で画面上の矢印（マウスポインタ）を動かすことのできる便利なポインティングデバイスで、操作面とその手前にある2つのボタンで構成されています。操作面は、マウスでいえばボール部分の機能を持ち、操作面を上下左右に指先でなぞることにより画面上のマウスポインタを移動させます。また、軽くたたく（タップ）ことにより、クリックやダブルクリック、ポイント、ドラッグなどの操作を行うこともできます。左右のボタンは、それぞれマウスの左右のボタンに相当し、その機能はアプリケーションにより異なります。



(イラストはモデルや状況により異なります)

## POINT

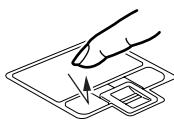
- ▶ フラットポイントは、その動作原理上、お使いになる方の指先の乾燥度などにより、ポイントング動作に若干の個人差が発生する場合があります。
- ▶ 操作面は、湿気などにより結露したり、汚れが付着したりすると、誤動作を起こすことがあります。この場合は、乾いた柔らかい布で水分や汚れを拭き取ってください。また、汚れがひどい場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布で汚れを拭き取ってください。
- ▶ お使いになるアプリケーションによっては、スクロールボタン、または指紋センサーのスクロール機能による画面のスクロールができない場合があります。
- ▶ マウスを使用する場合は、フラットポイントとの同時使用についてなどを、コントロールパネルの「マウス」で設定できます（→ P.36）。また、BIOS セットアップの「キーボード／マウス設定」でも設定できます（→ P.88）。

## ■ フラットポイントの使い方

### ● クリック



または



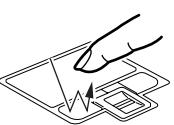
操作面を 1 回タップ（軽くたたく）するか、左ボタンをカチッと 1 回押して、すぐ離すことです。

また、右ボタンを 1 回カチッと押すことを「右クリック」といいます。

### ● ダブルクリック



または



操作面を 2 回連続してタップするか、左ボタンをカチカチッと 2 回素早く押して、すぐ離すことです。ダブルクリックの速度は、コントロールパネルの「マウス」で調節できます。

### ● ポイント



マウスポインタをメニューなどに合わせることです。マウスポインタを合わせたメニューの下に階層がある場合（メニューの右端に▶が表示されています）、そのメニューが表示されます。

### ● ドラッグ



または



マウスポインタを任意の位置に移動し、操作面を素早く 2 回タップします。2 回目のタップのときに指を操作面上から離さないで、希望の位置まで操作面をなぞり、指を離します。または、マウスポインタを任意の位置に移動し、左ボタンを押しながら希望の位置まで操作面をなぞり、指を離します。

● スクロール



戻る：向こうにスライド  
進む：手前にスライド

指紋センサーのスクロール機能で、画面のスクロールすることができます。ウィンドウ内のスクロールする領域をクリックしてから、指紋センサー上で指先を前後方向にスライドすると、ウィンドウ内の表示がスクロールします。

POINT

- ▶ 上記のボタンの操作は、右利き用に設定した場合の操作です。左右のボタンの役割は、コントロールパネルの「マウス」で変更できます。
- ▶ 操作面をタップする場合は、指先で軽く、素早く行ってください。また、力を入れて行う必要はありません。
- ▶ マウスポインタは、フラットポイントの操作面を指でなぞった方向に移動します。操作面の端まで移動した場合は、一度操作面から離し、適当な場所に指を降ろしてからもう一度なぞってください。
- ▶ スクロールの速度はコントロールパネルの「マウス」で変更できます。  
また、指紋センサーのスクロール機能の速度はコントロールパネルの「指紋センサー」で変更できます。

## マウスについて

### ◆ 重要

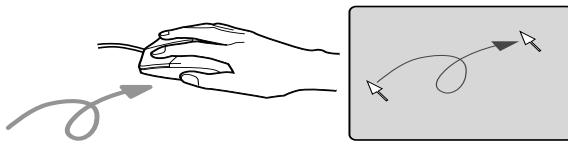
- ▶ カスタムメイドの選択により USB マウス、USB マウス（光学式）を添付しております。特に断りがない場合は、USB マウスと USB マウス（光学式）をまとめて「USB マウス」と呼んでいます。

### POINT

- ▶ お使いになるアプリケーションによっては、操作面による画面のスクロールが出来ない場合があります。

## ■ マウスの使い方

マウスの左右のボタンに指がかかるように手をのせ、机の上などの平らな場所で滑らせるように動かします。マウスの動きに合わせて、マウスポインタが同じように動きます。画面を見ながら、マウスを動かしてみてください。



### □ ボタンの操作

#### ● クリック



マウスの左ボタンをカチッと 1 回押して、すぐ離すことです。

また、右ボタンを 1 回カチッと押すことを「右クリック」といいます

#### ● ダブルクリック



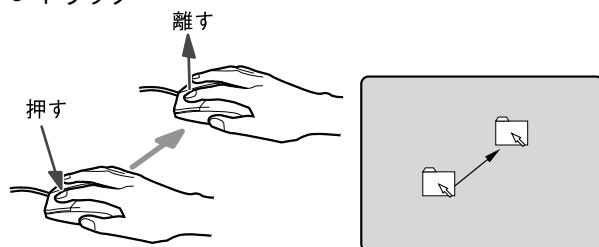
マウスの左ボタンをカチカチッと 2 回素早く押して、すぐ離すことです。ダブルクリックの速度は、コントロールパネルの「マウス」で調節できます。

#### ● ポイント



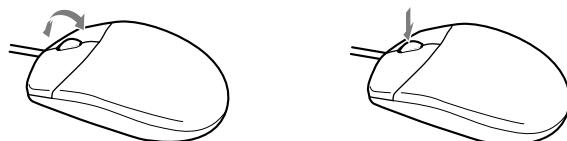
マウスポインタをメニューなどに合わせることです。マウスポインタを合わせたメニューの下に階層がある場合（メニューの右端に▶が表示されています）、そのメニューが表示されます。

● ドラッグ



マウスの左ボタンを押したままマウスを移動し、希望の位置でボタンを離します。

● スクロール



ウィンドウ内のスクロールする領域をクリックしてからスクロールボタンを前後方向に回すと、ウィンドウ内の表示がスクロールします。

また、第3のボタンとして押しても使うことができます。

POINT

- ▶ 上記のボタンの操作は、右利き用に設定した場合の操作です。左右のボタンの役割は、コントロールパネルの「マウス」で変更できます。

## ■ USB マウスについて

### □ USB マウス（光学式）について

USB マウス（光学式）は、底面からの赤い光により照らし出されている陰影をオプティカル（光学）センサーで検知し、マウスの動きを判断しています。このため、机の上だけでなく、衣類の上や紙の上でも使用することができます。

#### ○ 重要

- ▶ オプティカル（光学）センサーについて
  - ・マウス底面から発せられている赤い光を直接見ると、眼に悪い影響を与えることがありますので避けてください。
  - ・センサー部分を汚したり、傷を付けたりしないでください。
  - ・発光部分を他の用途に使用しないでください。

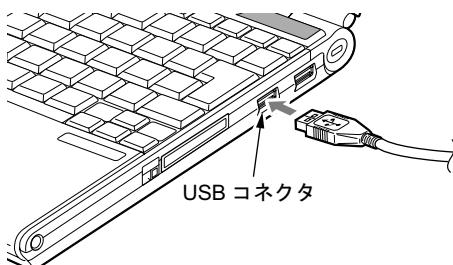
#### ○ POINT

- ▶ USB マウス（光学式）は、次のようなものの表面では、正しく動作しない場合があります。
  - ・鏡やガラスなど反射しやすいもの
  - ・光沢のあるもの
  - ・濃淡のはっきりした縞模様や柄のもの（木目調など）
  - ・網点の印刷物など、同じパターンが連続しているもの
- ▶ マウスパッドをお使いになる場合は、明るい色の無地のマウスパッドをお使いになることをお勧めします。
- ▶ USB マウス（光学式）は、非接触でマウスの動きを検知しているため、特にマウスパッドを必要としません。ただし、マウス本体は接触しているので、傷がつきやすい机やテーブルの上では、傷を防止するためにマウスパッドをお使いになることをお勧めします。

### □ 接続のしかた

#### 1 本パソコンの USB コネクタにマウスを接続します。

コネクタの形を互いに合わせ、まっすぐに差し込んでください。



#### ○ POINT

- ▶ USB マウスは、パソコンの電源が入った状態で取り付けおよび取り外しができます。
- ▶ USB マウスによっては、ドライバのインストールが必要なものがあります。お使いになる USB マウスのマニュアルをご覧になり、必要に応じてドライバをインストールしてください。
- ▶ USB マウスを接続すると、自動的にフラットポイントが使えなくなります。フラットポイントと併用する場合は、コントロールパネルの「マウス」で設定します（→ P.36）。
- ▶ Windows が起動していないときは、USB マウスはお使いになれません。
- ▶ USB マウスはどちらの USB コネクタでも接続できます。
- ▶ USB マウスは、ポートリプリケータの USB コネクタに接続することもできます。

## ■ USB マウス接続時にフラットポイントを有効にするには

本パソコンにUSBマウスを接続すると、自動的にフラットポイントが使えなくなります。USBマウスを接続したときにフラットポイントと併用する場合は、次のように設定してください。

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
- 2 「マウス」アイコンをクリックします。  
「マウスのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3 「デバイス設定」タブの「USB マウス接続時に内蔵ポインティングデバイスを無効にする」のチェックを外し、「OK」をクリックします。

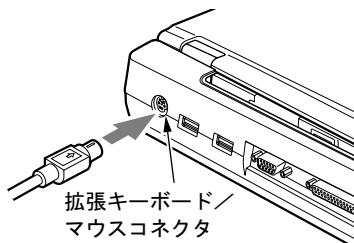
### POINT

- ▶ フラットポイントとUSBマウスを同時に使用する設定をした場合、BIOSセットアップの設定を変更すると、【Fn】+【F4】キーでフラットポイントの有効と無効を切り替えることができます。
  1. BIOS セットアップの「内蔵ポインティングデバイス」の項目を「手動」に設定します。  
「BIOS」－「BIOS セットアップの操作のしかた」(→ P.83)
  2. Windows が起動したら、【Fn】+【F4】キーを押します。  
キーを押すたびに、フラットポイントの有効と無効が切り替わります。
- ・【Fn】+【F4】キーを押してフラットポイントを無効にしても、本パソコンの再起動後およびリジューム後は、フラットポイントが有効になります。フラットポイントを無効にする場合は、もう一度【Fn】+【F4】キーを押して切り替えてください。
- ・「マウスのプロパティ」ウィンドウで、USB マウスを接続したときにフラットポイントと一緒に使用する設定にしたとき以外は、BIOS セットアップの設定は変更しないでください。
- ▶ フラットポイントを常に無効にするには、手順 3 で「USB マウス接続時に内蔵ポインティングデバイスを無効にする」をチェックしてください。

## ■ PS/2 マウスについて

本パソコンは、ポートリプリケータの拡張キーボード／マウスコネクタに、PS/2 マウスを接続することができます。ここでは、マウスの接続などについて説明します。

- 1** パソコン本体の電源を切ります（→『取扱説明書』）。
- 2** ポートリプリケータを取り付けます。  
「ハードウェア」－「ポートリプリケータを取り付ける」（→P.50）
- 3** ポートリプリケータの拡張キーボード／マウスコネクタに、マウスを接続します。  
コネクタに刻印されている矢印が、上側になるように接続してください。



### POINT

- ▶ ポートリプリケータをパソコン本体に接続している場合は、スタンバイ中にマウスを接続することもできます。
- ▶ PS/2 マウスを接続すると、自動的にフラットポイントが使えなくなります。  
フラットポイントと併用する場合や、ホットプラグ機能については、BIOS セットアップの「キーボード／マウス設定」で設定できます（→P.88）。
- ▶ スクロール機能付きマウスを接続している場合は、パソコンの動作中にマウスを抜かないでください。
- ▶ スクロール機能付きマウスなどの多機能マウスを使用する場合は、専用ドライバのインストールが必要なことがあります。その場合には、標準 PS/2 マウスのドライバに変更してから、お使いになるマウスのドライバをインストールしてください。
- ▶ マウスは、定期的にクリーニングをしてください（→P.79）。

# 4 キーボードについて

## OADG キーボード

キーボードのキーの役割を説明します。

キーは大きく分けると、制御キーと文字キーの2種類に分かれます。

### POINT

- ▶ お使いになるアプリケーションにより、キーの役割が変わることがあります。  
アプリケーションのマニュアルをご覧ください。
- ▶ キーボードに青字で刻印されているキーは、【Fn】キーと一緒に押すとお使いになります。

 : 制御キー  
 : 文字キー



### ■ 主なキーの名称と働き

#### 1 【Esc】キー

アプリケーションの実行中の操作を取り消します。

#### 2 【F1】～【F12】キー

アプリケーションごとにいろいろな機能が割り当てられています。

#### 3 【Num Lk】キー

テンキーモードに切り替えます。再度押すと、解除されます。

「テンキーモードについて」(→ P.40)

#### 4 【Insert】キー／【Prt Sc】キー

【Insert】キー

文字の入力時に、「挿入モード」と「上書きモード」を切り替えます。

**【Prt Sc】キー**

【Fn】キーと一緒に押すと、画面のコピーをクリップボードに取り込みます。

また、【Alt】キーと一緒に押すと、アクティブになっているウィンドウのコピーをとることができます。

**5 【Delete】キー**

カーソルの右にある文字や選択した範囲の文字、または選択したアイコンやファイルなどを削除します。

また、【Ctrl】+【Alt】キーと一緒に押すと、「Windows のセキュリティ」が表示され、システムを強制終了できます。

**6 【半角／全角】キー**

文字の入力時に、半角と全角を切り替えます。

**7 【Caps Lock】キー**

【Shift】キーと一緒に押して、アルファベットの大文字／小文字の入力モードを切り替えます。

Caps Lock を ON にすると大文字、OFF にすると小文字を入力できます。

**8 【Shift】キー**

他のキーと組み合わせて使います。

**9 【Ctrl】キー**

他のキーと組み合わせて使います。

**10 【Back Space】キー**

カーソルの左にある文字や選択した範囲の文字を削除します。

**11 【Enter】キー**

入力した文字を確定したり、文を改行したり、コマンドを実行したりします。

リターンキーまたは改行キーとも呼ばれます。

**12 【↑】【↓】【←】【→】キー**

カーソルを移動します。

**13 【Fn】キー**

本パソコン独自のキーです。次のような働きがあります。

**【Fn】+【F3】**

スピーカーやヘッドホンの ON/OFF を切り替えます。

『ソフトウェアガイド』の「動作環境の設定」－「キーボードで調節する」

**【Fn】+【F4】**

BIOS セットアップの「内蔵ポインティングデバイス」(→ P.89) の項目を「手動」に設定したときに、フラットポイントの有効と無効を切り替えます(→ P.36)。

全画面表示と通常表示を切り替えます。

**【Fn】+【F5】**

『ソフトウェアガイド』の「動作環境の設定」－「全画面表示と通常表示の切り替え」

**【Fn】+【F6】**

液晶ディスプレイを暗くします。

『ソフトウェアガイド』の「動作環境の設定」－「液晶ディスプレイの明るさ設定」

**【Fn】+【F7】**

液晶ディスプレイを明るくします。

『ソフトウェアガイド』の「動作環境の設定」－「液晶ディスプレイの明るさ設定」

【Fn】 + 【F8】	音量を小さくします。 『ソフトウェアガイド』の「動作環境の設定」－「キーボードで調節する」
【Fn】 + 【F9】	音量を大きくします。 『ソフトウェアガイド』の「動作環境の設定」－「キーボードで調節する」
【Fn】 + 【F10】	外部ディスプレイ接続時に、液晶ディスプレイのみの表示、外部ディスプレイのみの表示、液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示を切り替えます。 『ソフトウェアガイド』の「動作環境の設定」－「表示装置の切り替え」

**14 【Win】 (Windows) キー**

「スタート」メニューを表示します。

**15 【Alt】 キー**

他のキーと一緒に組み合わせて使います。

**16 【Space】 キー**

空白を入力します（キーボード手前中央にある、何も書かれていない横長のキーです）。

**17 【Alt】 (アプリケーション) キー**

選択した項目のショートカットメニューを表示します。

マウスの右クリックと同じ役割をします。

**18 【Home】 キー**

【Fn】キーと一緒に押すと、カーソルを行の最初に移動します。

また、【Ctrl】キーと一緒に押すと、文章の最初に移動します。

**19 【Pg Up】 キー**

【Fn】キーと一緒に押すと、前の画面に切り替えます。

**20 【Pg Dn】 キー**

【Fn】キーと一緒に押すと、次の画面に切り替えます。

**21 【End】 キー**

【Fn】キーと一緒に押すと、カーソルを行の最後に移動します。

また、【Ctrl】キーと一緒に押すと、文章の最後に移動します。

## ■ テンキーモードについて

文字キーの一部を通常の状態と切り替えて、テンキー（数値入力を容易にするキー配列）として使えるようにするモードを「テンキーモード」といいます。テンキーモードの切り替えは、【Num Lk】キーで行い（状態表示 LCD の Num Lock 表示が点灯）、キーボードの図の太線で囲まれたキーがテンキーとなります。これらのキーで入力できる文字は、各キーの前面に刻印されています。

### POINT

- ▶ 別売のテンキーボードを接続している場合に【Num Lk】キーを押してテンキーモードにすると、テンキーボードのテンキーが有効となり、パソコン本体のキーボードのテンキー部は無効となります。
- ▶ BIOS セットアップの「キーボード／マウス設定」で「起動時の Numlock 設定」を「オン（Fn キー）」に設定すると、パソコン本体のキーボードのテンキー部分が、【Fn】キーと一緒に押した場合のみテンキーモードとして使用できるようになります。

## テンキーボード

### ■ USB テンキーボードについて

USB テンキーボードは、パソコン本体のテンキーモードとは独立してテンキーモードに切り替えることができます。

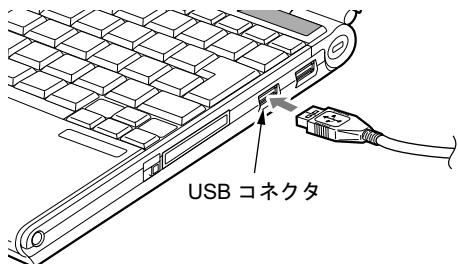
テンキーモードに切り替えるには、USB テンキーボードの【Num Lock】キーを押します。

#### POINT

- ▶ パソコンの電源を入れた時、またはパソコンに接続した時は、USB テンキーボードはテンキーモードになります。
- ▶ Excel 2003をお使いのときに、テンキーの【-】キーを押すと拡張（選択）モードになることがあります。これは Excel 2003 の仕様によるものです。

#### □ 接続のしかた

USB テンキーボードは、USB コネクタに接続して使用します。



#### POINT

- ▶ 接続方法については、「ハードウェア」-「USB マウスについて」(→ P.35)をご覧ください。

### ■ PS/2 テンキーボードについて

PS/2 テンキーボードは、パソコン本体がテンキーモードの場合のみ使用できます。

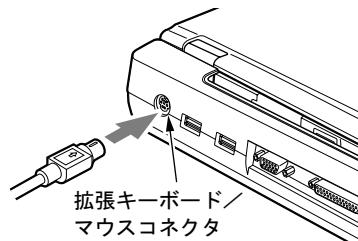
テンキーモードに切り替えるには、パソコン本体の【Num Lk】キー、または PS/2 テンキーボードの【Num Lock】キーを押します。

#### POINT

- ▶ Excel 2003をお使いのときに、テンキーの【-】キーを押すと拡張（選択）モードになることがあります。これは Excel 2003 の仕様によるものです。

## □接続のしかた

PS/2 テンキーボードは、拡張キーボード／マウスコネクタに接続して使用します。



### POINT

- ▶ 接続方法については、「ハードウェア」-「PS/2 マウスについて」(→ P.37) をご覧ください。

# 5 バッテリについて

## バッテリを充電する

**1 AC アダプタを接続します。**

AC アダプタを接続すると充電が始まり、状態表示 LCD にバッテリ充電表示 (→) と、そのときのバッテリ残量が表示されます。

**2 バッテリ充電表示が消えたことを確認し、AC アダプタを取り外します。**

 **POINT**

- ▶ 充電時間については、「技術情報」—「仕様一覧」(→ P.106) をご覧ください。
- ▶ 本パソコンご購入時、または1ヶ月以上充電していない場合は、バッテリを充電してからお使いください。
- ▶ バッテリの充電は、バッテリ充電表示が消え、左端のバッテリ残量表示が点滅 (→  ) から点灯 (→  ) に変わると完了です。バッテリの充電は十分に時間をかけて行い、満充電状態にしてください。
- ▶ バッテリ残量が90%以上残っている場合は、AC アダプタを取り付けても充電されません。89%以下で充電されます。
- ▶ 電源が切れている場合、充電が完了してしばらくすると状態表示 LCD の全表示が消灯します。
- ▶ 周囲の温度が高すぎたり低すぎたりすると、バッテリの充電能力は低下します。
- ▶ バッテリ運用直後の充電などでは、バッテリの温度が上昇しているため、バッテリの保護機能が働いて充電が行われない場合があります(バッテリ充電表示が点滅します)。しばらくして、バッテリの温度が低下すると充電が開始されます。

## バッテリで運用する

- 1 AC アダプタを取り外し、電源ボタンを押します。

電源表示が点灯します。



(イラストはモデルや状況により異なります)

### POINT

- ▶ 周囲の温度が低いと、バッテリ稼働時間は短くなります。
- ▶ バッテリ稼働時間については、「技術情報」—「仕様一覧」(→ P.106)をご覧ください。
- ▶ バッテリを長期間使用すると充電する能力が低下するため、バッテリ稼働時間が短くなります。稼働時間が極端に短くなってきたら、新しいバッテリに交換してください。

## バッテリ残量を確認する

バッテリの残量は、電源が入っているときや充電中に、状態表示 LCD のバッテリ残量表示で確認できます。

### ■ バッテリの残量表示



約 100%～約 76% のバッテリ残量を示します。



約 75%～約 51% のバッテリ残量を示します。



約 50%～約 26% のバッテリ残量を示します。



約 25%～約 13% のバッテリ残量を示します（充電中は、0%～約 25% のバッテリ残量を示します）。



LOW バッテリ状態（約 12%以下のバッテリ残量）を示します。■が点滅します（→ P.46）。



バッテリ切れ状態（0%のバッテリ残量）を示します。

### POINT

- ▶ バッテリ残量表示は、バッテリ（リチウムイオン電池）の特性上、使用環境（温度条件やバッテリの充放電回数など）により、実際のバッテリ残量とは異なる表示をする場合があります。
- ▶ バッテリ残量が 90%以上残っている場合は、AC アダプタを取り付けても充電されません。89%以下で充電されます。

### ■ バッテリの異常表示



バッテリが正しく充電できることを示します。

### POINT

- ▶ が点滅している場合は、パソコン本体の電源を切ってからバッテリの取り付けをやり直してください。それでも点滅している場合はバッテリが異常です。新しいバッテリと交換してください。

「ハードウェア」－「バッテリパックを交換する」（→ P.48）

## ■ LOW バッテリ状態

バッテリが LOW バッテリ状態になると、状態表示 LCD のバッテリ残量表示が点滅します（）。すみやかに AC アダプタを接続して、バッテリを充電してください。

### POINT

- ▶ Windows の省電力機能で警告音が鳴るように設定できます（→『ソフトウェアガイド』の「動作環境の設定」－「省電力の設定」）。
- ▶ ただし、スピーカーを OFF にしていると、警告音が聞こえません。【Fn】+【F3】キーを押して、スピーカーの ON と OFF を切り替えてください（→『ソフトウェアガイド』の「動作環境の設定」－「キーボードで調節する」）。
- ▶ OS の起動前（BIOS セットアップなど）では、警告音が鳴るように設定できません。
- ▶ LOW バッテリ状態のまま使い続けると、作成中または保存中のデータが失われることがあります。すみやかに AC アダプタを接続してください。また、AC アダプタがない場合は、作成中のデータを保存し、動作中のアプリケーションを終了後、本パソコンの電源を切ってください。
- ▶ LOW バッテリ状態のまま放置すると、自動的にスタンバイします。ただし、データの読み書きを行っている場合は、その処理が終了するまでスタンバイしません。
- ▶ 本パソコンではバッテリ残量が約3%になったら、自動的にスタンバイするように設定されています。設定を変更する場合は、次の項目のチェックを外してください。
  - ・「電源オプションのプロパティ」ウィンドウの「アラーム」タブの「バッテリ切れアラーム」の「電源レベルが次に達したらバッテリ切れアラームで知らせる」
- ▶ ただし、これらの設定を変更すると、バッテリが切れた時点で電源が切断されます。そのため、保存中や作成中のデータが失われたり、パソコン本体の動作が不安定になることがあります。

## 取り扱い上の注意

### ⚠ 警告



- バッテリの交換などで、バッテリパックの取り付け／取り外しを行うときは、落としたり、強い衝撃を与えないでください。また、落としたり、強い衝撃を与えたバッテリパックは使用しないでください。

感電や火災、バッテリパックの破裂の原因となります。

- 分解しないでください

バッテリを分解して内部に触れると、感電・火災の原因となります。

- 放電について

- ・バッテリは、充電後にお使いにならなくとも、少しずつ自然放電していくので、使う直前に充電することをお勧めします。
- ・長期間（約1ヶ月以上）本パソコンをお使いにならない場合は、バッテリを取り外して涼しい場所に保管してください。パソコン本体に取り付けたまま長期間放置すると過放電となり、バッテリの寿命が短くなります。

- 寿命について

- ・パソコン本体を長期間使用しない場合でも、バッテリは消耗し劣化します。月に一度はパソコン本体をバッテリで運用し、バッテリの状態を確認してください。
- ・高温環境に放置した場合、バッテリの消耗、劣化が進みます。
- ・バッテリは消耗品なので、長期間使用すると充電能力が低下します。その場合は新しいバッテリと交換してください。
- ・バッテリの稼働時間が極端に短くなってきたらバッテリの寿命です。
- ・寿命になったバッテリは、パソコン本体から取り外してください。取り付けたまま放置すると、感電や火災の原因となります。

- 廃棄・リサイクルについて

バッテリを廃棄する場合は、ショート（短絡）防止のために、バッテリパックのコネクタに絶縁テープを貼るなどの処置を行ってください。なお、取り外した内蔵バッテリパックは乾電池などの電池と混ぜないようにしてください。

また、内蔵バッテリパック（リチウムイオン電池）は、貴重な資源です。廃棄する場合は、リサイクルにご協力をお願いします。

バッテリパックのリサイクルについては、『取扱説明書』をご覧ください。

- バッテリ稼働時間について

- ・バッテリ稼働時間を長くするには、省電力機能を利用します（→『ソフトウェアガイド』の「動作環境の設定」－「省電力」）。
- ・バッテリ稼働時間は環境温度に影響され、低温時はバッテリ稼働時間が短くなる場合があります。

- 次のような場合は AC アダプタを使用してください

- ・LAN を頻繁に使用するとき

- 次のような場合は、バッテリ残量に注意してください

- ・ワイヤレス LAN などのワイヤレス機器を使用するとき
- ・BIOS セットアップを操作するとき

## バッテリパックを交換する

内蔵バッテリパックの交換は、アプリケーションを正しく終了させてから行います。

### △警告

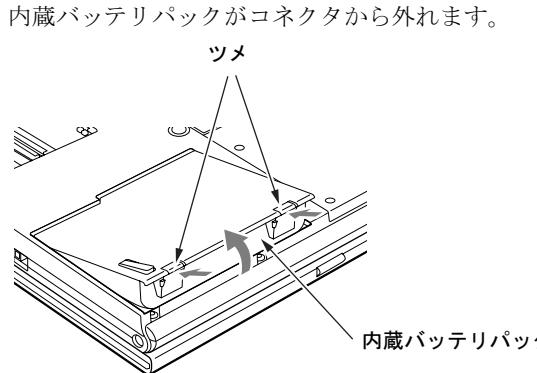


- 内蔵バッテリパックの交換を行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。また、パソコン本体や内蔵バッテリパックのコネクタに触れないでください。  
感電や故障の原因となります。

### POINT

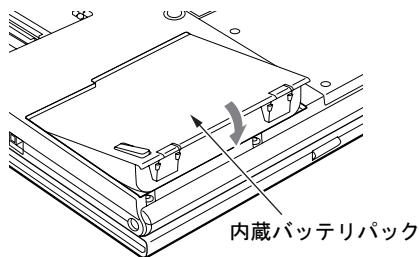
- ▶ 新しい内蔵バッテリパックは、次の製品をお買い求めください。
  - 品名：内蔵バッテリパック（4セル）
  - 型名：FMVNBP135
  - 品名：内蔵バッテリパック（L）（6セル）
  - 型名：FMVNBP136
  - （ご購入元にお問い合わせください）

- 1 パソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外します（→『取扱説明書』）。
- 2 液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。
- 3 内蔵バッテリパックのツメを内側に押しながら内蔵バッテリパックを取り外します。



#### 4 新しい内蔵バッテリパックを取り付けます。

新しい内蔵バッテリパックを斜め上から差し込み、パソコン本体の突起と内蔵バッテリパックのスリットをあわせ、カチッと音がするまでしっかりとはめこみます。



#### 重要

- 取り外した内蔵バッテリパックは、ショート（短絡）防止のために、内蔵バッテリパックのコネクタに絶縁テープを貼るなどの処置をしてください。なお、取り外した内蔵バッテリパックは乾電池などの電池と混ぜないようにしてください。また、内蔵バッテリパック（リチウムイオン電池）は、貴重な資源です。廃棄する場合は、リサイクルにご協力をお願いします。
- リサイクルについては、『取扱説明書』をご覧ください。

## 6 ポートリプリケータについて

### ☞ 重要

- ▶ カスタムメイドの選択によりポートリプリケータを添付しています。
- ▶ パソコン本体左側面に盗難防止用ケーブルを接続している場合は、あらかじめ取り外してください。
- ▶ ポートリプリケータに接続している周辺機器の中には、電源が入っている状態でポートリプリケータの取り付け／取り外しを行うと、動作が不安定になるものがあります。この場合はパソコン本体の電源を切ってから、ポートリプリケータの取り付け／取り外しを行ってください。
- ▶ ポートリプリケータ接続時には、必ずパソコン本体の LAN コネクタから LAN ケーブルを取り外してください。破損するおそれがあります。

## ポートリプリケータを取り付ける

### ☞ 重要

- ▶ ポートリプリケータに周辺機器を取り付け／取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外してください。
- ▶ パソコン本体背面に周辺機器を取り付けている場合は、周辺機器を取り外しておいてください。

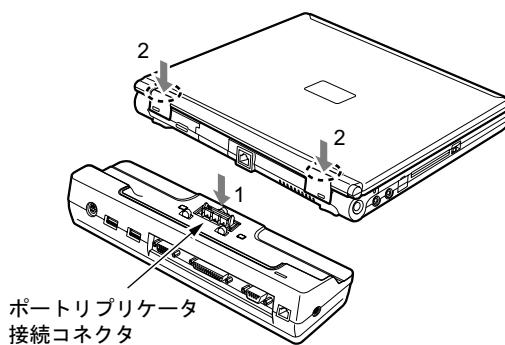
### △ 注意



- パソコン本体にポートリプリケータを取り付ける場合は、指をはさまないように注意してください。  
けがの原因となることがあります。

#### 1 パソコン本体下面にポートリプリケータを取り付けます。

コネクタの位置を合わせてパソコン本体を水平に下ろし（1）、パソコン本体上面の奥側を軽く押さえて（2）、ポートリプリケータにしっかりと取り付けます。



## ※ 重要

- ▶ ポートリプリケータを取り付ける場合、パソコン本体上面の奥側を軽く抑えてください。強く押さえると液晶ディスプレイが割れるおそれがありますので、注意してください。
- ▶ 本パソコンを持ち運ぶ場合は、ポートリプリケータを必ず取り外してください。ポートリプリケータを接続した状態で本パソコンを持ち運ぶと、パソコン本体およびポートリプリケータのコネクタが破損するおそれがあります。

## ポートリプリケータを取り外す

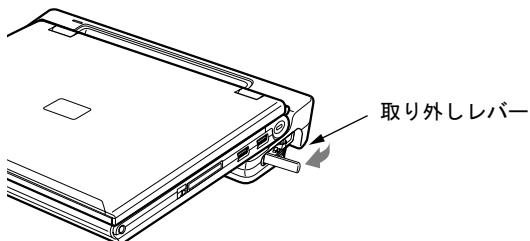
## ※ 重要

- ▶ ポートリプリケータに周辺機器を取り付け／取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。

**1** ポートリプリケータに周辺機器を接続している場合は、周辺機器の電源を切ります。

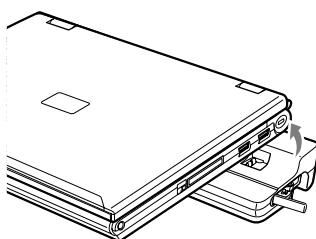
**2** ポートリプリケータのロックを外します。

ポートリプリケータの取り外しレバーを起こして、ロックを外します。



**3** ポートリプリケータを取り外します。

パソコン本体を持ち上げて、ポートリプリケータを取り外します。



# 7 メモリについて

## メモリを取り付ける／取り外す

### △警告



- メモリの取り付け／取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、AC アダプタや周辺機器を取り外してください。スタンバイ状態では、取り付け／取り外しを行わないでください。  
感電の原因となります。また、パソコン本体やメモリが故障する原因となることがあります。

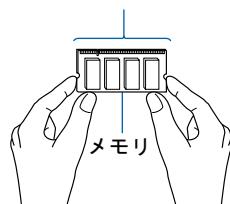


- 取り外したカバー、キャップ、ネジ、電池などの部品は、小さなお子様の手の届かないところに置いてください。  
誤って飲み込むと窒息の原因となります。万一、飲み込んだ場合は、すぐに医師に相談してください。

### ○重要

- ▶ 本パソコンのネジを取り外すときは、ネジに合ったプラスのドライバー 1 番をお使いください。他のドライバーを使うと、ネジの頭をつぶすおそれがあります。
- ▶ 取り付けるメモリは、本パソコンでサポートしているメモリをご使用ください。  
FMVNM1GH (1GB)、FMVNM51H (512MB)、FMVNM25H (256MB) がお使いになれます。  
なお、PC2-3200 相当の性能で動作します。
- ▶ メモリは次図のように両手でふちを持ってください。金色の線が入っている部分（端子）には、絶対に手を触れないでください。指の油分などが付着すると、接触不良の原因となることがあります。

この部分には手を触れないでください



## POINT

- ▶ 操作に必要な箇所以外には手を触れないでください。故障の原因となることがあります。
- ▶ 取り外したネジなどをパソコン本体内部に落とさないでください。故障の原因となることがあります。
- ▶ メモリは何度も抜き差ししないでください。故障の原因となることがあります。
- ▶ メモリの表面の端子やIC部分に触れて押さないでください。また、メモリに強い力をかけないようにしてください。
- ▶ メモリがうまく取り付けられないときは、無理にメモリを取り付けず、いったんメモリを抜いてから再度メモリを取り付け直してください。
- ▶ メモリを取り付け、メモリの容量を確認するには、BIOS セットアップの「情報」メニューの「メモリスロット」の項目を見ます(→P.94)。「256 MB DDR2 SDRAM」などと取り付けたメモリの容量が表示されます。取り付けが正しいにもかかわらず本パソコンが起動しない場合は、メモリが故障または不良です。「富士通ハードウェア修理相談センター」またはご購入元にご連絡ください。
- ▶ 本パソコンは、メインメモリの一部をビデオメモリで使用しています。そのため、起動時の自己診断(POST)時や OS の画面に表示されるメモリの容量は 8MB ~ 128MB 少なく表示されます。また、お使いのシステム構成によっては、さらに 1MB 少なく表示される場合があります。
- ▶ メモリを増やすときは、あらかじめ取り付けられているメモリを取り外して交換する場合があります。

## ■ メモリを取り付ける

### 重要

- ▶ メモリは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまつた静電気により破壊される場合があります。メモリを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。

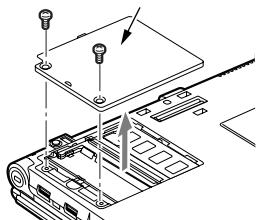
### 1 内蔵バッテリパックを取り外します。

「バッテリパックを交換する」(→P.48) の手順 1 ~ 3

### 2 ネジ(2ヶ所)を取り外し、拡張RAMモジュールスロットカバーを取り外します。

パソコン本体下面にある拡張 RAM モジュールスロットカバーを、外側にスライドしてから取り外します。

拡張 RAM モジュールスロットカバー

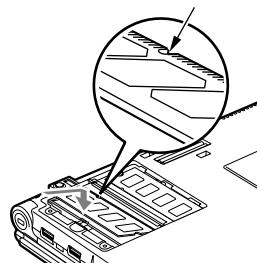


**3 メモリを取り付けます。**

両手でメモリのふちを持って、メモリの欠けている部分と、コネクタの突起を合わせ、斜め上からしっかりと差し込み、パチンと音がするまで下に倒します。

メモリをおさえている両側のツメが、きちんとはまつたことを確認してください。

メモリの欠けている部分

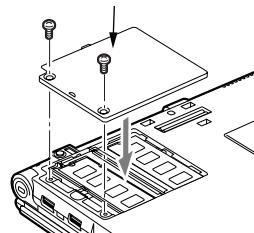
**重要**

- ▶ メモリの取り付けを行う場合は、端子や IC などに触れないようメモリのふちを持ってください。
- ▶ メモリの表面の端子や IC 部分に触れて押さないでください。また、メモリに強い力をかけないようにしてください。
- ▶ メモリがうまく取り付けられないときは、無理にメモリを取り付けず、いったんメモリを抜いてから再度メモリを取り付け直してください。無理にメモリを取り付けようとすると、メモリやコネクタが破損する原因となります。

**4 拡張 RAM モジュールスロットカバーを取り付け、ネジで固定します。**

手順 2 で外したカバーを取り付けます。

拡張 RAM モジュールスロットカバー

**5 内蔵バッテリパックを取り付けます。**

「バッテリパックを交換する」(→ P.48) の手順 4

**重要**

- ▶ メモリが正しく取り付けられていないと、電源を入れたときに「拡張メモリエラー」というメッセージや英語のメッセージが表示されたり、画面に何も表示されないことがあります。その場合は電源を切り、メモリを取り付け直してください。

## ■ メモリを取り外す

### ☞ 重要

- ▶ メモリは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまつた静電気により破壊される場合があります。メモリを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。

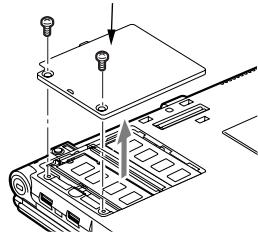
#### 1 内蔵バッテリパックを取り外します。

「バッテリパックを交換する」(→ P.48) の手順 1 ~ 3

#### 2 ネジ(2ヶ所)を取り外し、拡張RAMモジュールスロットカバーを取り外します。

パソコン本体下面にある拡張 RAM モジュールスロットカバーを、外側にスライドしてから取り外します。

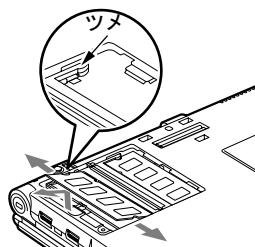
拡張 RAM モジュールスロットカバー



2  
ハードウェア

#### 3 メモリを取り外します。

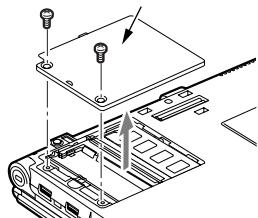
メモリを押さえている両側のツメを左右に開き、スロットから取り外します。



#### 4 拡張 RAM モジュールスロットカバーを取り付け、ネジで固定します。

手順 2 で外したカバーを取り付けます。カバーのツメをパソコン本体のツメ穴に合わせてください。

拡張 RAM モジュールスロットカバー



#### 5 内蔵バッテリパックを取り付けます。

「バッテリパックを交換する」(→ P.48) の手順 4

 **POINT**

- ▶ メモリを交換する場合は、手順3の後メモリを取り付けてください。  
「メモリを取り付ける」(→ P.53) の手順3

# 8 セキュリティボタン

## セキュリティボタンについて

本パソコンは、他人による不正使用を防止するため、セキュリティボタンによるセキュリティ機能をサポートしています。

パスワード設定後は、正しいパスワードを知っている人以外は本パソコンを使用できなくなり、他人による不正使用を防ぐことができます。

ここでは、セキュリティボタンを使用して、パソコン本体にパスワードを設定する方法や、セキュリティを解除する方法を説明します。

## パスワードを設定する

ここでは、設定できるパスワードの種類やパスワードの設定方法について説明します。

### ■ パスワードの種類

「セキュリティボタン」を使用して設定できるパスワードは、次の2種類です。

お使いのパソコン1台につき、管理者用パスワードとユーザー用パスワードをそれぞれ1つずつ設定できます。

#### ● 管理者用パスワード

本パソコンを管理する方が使用するパスワードです。パスワード機能を使用するときは、必ず設定してください。

#### ● ユーザー用パスワード

本パソコンをお使いになる方が使用するパスワードです。ユーザー用パスワードが設定されていない場合には、パソコン本体にセキュリティがかかりません。必ず設定してください。

### ■ パスワードを設定する

パスワードは、4つの数字ボタンを1つずつ押したり、同時に押したりする操作を1~5回繰り返したものを設定することができます。

#### ● 1回に押すボタンの組み合わせは、次のとおりです。

- ・1つのボタンのみ押す
- ・2つのボタンを同時に押す
- ・3つのボタンを同時に押す
- ・4つのボタンを同時に押す

#### ● 有効なパスワードの組み合わせには、次のようなものがあります。また、複数のボタンを同時に押す場合は「+」でつないで表しています。

- ・2+3、1を押し、Enterボタンを押す
- ・4を押し、Enterボタンを押す
- ・1+3、2+3+4、1、4、2を押し、Enterボタンを押す

## **重要**

- ▶ 管理者用パスワードを設定する前にユーザー用パスワードを設定しようとすると、メッセージが表示されます。管理者用パスワードを設定した後にユーザー用パスワードを設定してください。
- ▶ 設定したパスワードを忘れる、パスワードを変更できなくなったり、パソコン本体を起動できなくなったりします。
- ▶ 管理者用パスワードを忘れる、パスワード機能を解除できなくなり修理が必要になります。設定したパスワードを忘れないように何かに書き留め、安全な場所に保管しておくことをお勧めします。なお、管理者用パスワードを忘れてしまった場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」までご連絡ください。保証期間にかかわらず修理は有償となります。
- ▶ ユーザー用パスワードを忘れた場合は、セキュリティ管理者がユーザー用パスワードを変更することにより、パソコン本体を使用できるようになります。
- ▶ 管理者用「セキュリティボタン」では、パスワードを変更したり削除したりするときに、誤ったパスワードを何度も入力することができます。不用意に変更されることを防止するため、管理者用パスワードを設定した後は、管理者用「セキュリティボタン」をアンインストールすることをお勧めします。

### □ 管理者用パスワードを設定する

管理者用パスワードを設定するときは、管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしておいてください。

## **重要**

- ▶ 管理者用パスワードを設定するアプリケーションがインストールされていません。設定する場合はパソコンの管理者にご相談ください。

**1 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。**

**2 「名前」の欄に次のように入力し、「OK」をクリックします。**

fjsecs

このあとは、メッセージに従って管理者用パスワードを設定してください。

### □ ユーザー用パスワードを設定する

ユーザー用パスワードを設定するときは、管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしておいてください。

**1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「セキュリティボタン」→「セキュリティボタン」の順にクリックします。**

このあとは、メッセージに従ってユーザー用パスワードを設定してください。

## セキュリティを解除する

パスワードを設定した場合、本パソコンの起動時やリジューム時に、パスワードを要求されます。

パスワードは、パソコン本体のセキュリティボタンを使用して入力します。また、管理者用パスワード、ユーザー用パスワードのどちらを入力しても、セキュリティを解除できます。

## POINT

- ▶ BIOS セットアップの「セキュリティ」メニューで、「リジューム時のセキュリティボタン」を「使用しない」に設定している場合は、本パソコンのリジューム時にパスワードの入力を要求されません。ご購入時は「使用する」に設定されています。
- ▶ LAN によるリジューム時には、パスワードの入力を要求されません。
- ▶ 本パソコンの再起動時は、パスワードの入力を要求されません。

## ■ セキュリティの解除方法

### 1 本パソコンの電源を入れるか、リジュームします。

状態表示 LCD のセキュリティ表示 (ON) が点灯します。

電源の入れ方は『取扱説明書』を、リジュームについては『ソフトウェアガイド』の「動作環境の設定」—「省電力」をご覧ください。

### 2 管理者用パスワードまたはユーザー用パスワードを入力し、Enter ボタンを押します。

本パソコンが使用できるようになります。

2  
ハードウェア

## POINT

- ▶ リジューム時に状態表示 LCD のセキュリティ表示 (ON) が点灯しない場合は、電源ボタンを押してください。
- ▶ 誤ったパスワードを 3 回入力すると、約 1 分間警告音が鳴ります。
  - ・警告音が鳴っている間に正しいパスワードを入力すると、警告音が止まり、本パソコンが使用できるようになります。
  - ・警告音が鳴っている間に正しいパスワードを入力しないと、元の状態に戻ります。もう一度手順 1 からやり直してください。
- ▶ 起動時の自己診断テストでエラーが発生した場合は、「セキュリティボタン異常」というエラーメッセージが表示されます。電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

## パスワードを変更する／削除する

管理者用パスワードの変更／削除は、セキュリティ管理者のみ行えます。ユーザー用パスワードの変更／削除は、セキュリティ管理者およびセキュリティ管理者以外の方のいずれも行えます。

### 1 「管理者用パスワードを設定する」または「ユーザー用パスワードを設定する」の手順に従って、「セキュリティボタン」を起動します。

この後は、メッセージに従って操作してください。

## POINT

- ▶ 操作の途中で現在のパスワードを入力する画面が表示されます。「ユーザー用パスワードを設定する」の手順で「セキュリティボタン」を起動した場合は、3 回間違えると「セキュリティボタン」が起動しなくなります。この場合は、「管理者用パスワードを設定する」の手順で「セキュリティボタン」を起動し、ユーザー用パスワードを変更または削除してください。
- ▶ 管理者用パスワードを削除すると、ユーザー用パスワードも削除されます。

## 9 指紋センサー

指紋センサーをお使いになる場合は、別売のバイオ認証装置（Secure Login Box）が必要です。

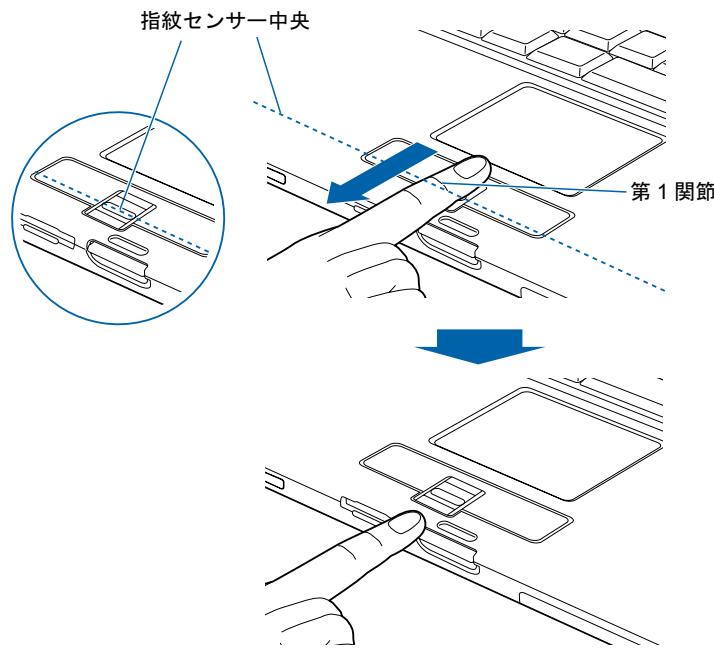
### 指のスライドのさせ方

指紋の登録や認証を行う場合は、次のように指をスライドさせてください。認証の失敗を減らすことができます。

- 操作する指の第1関節が、指紋センサーの中央部に当たるように準備します。  
第一関節より先の部分が読み取り範囲となります。



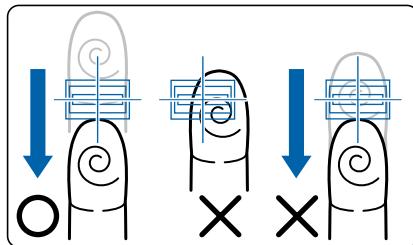
- 第一関節を指紋センサーに押し当てると同時に指を動かし、センサー部が完全に見えるまで水平にスライドします。



(イラストは機種や状況により異なります)

## ※重要

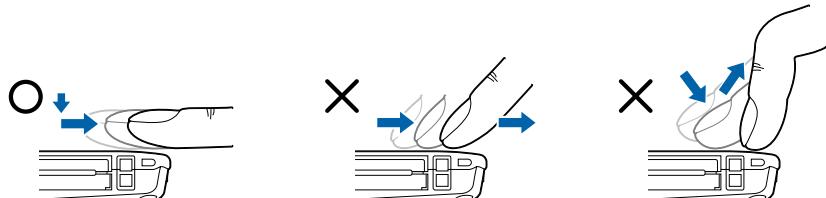
- ▶ うまく認識されないときは  
次の点に気を付けて操作してください。
  - ・指の第一関節より先の部分が、指紋センサー上を通過するようにする
  - ・指紋の渦の中心が、指紋センサーの中心を通過するようにする
  - ・1秒程度で通過するくらいの速さで、スーッと動かす



なお、親指など、指紋の渦の中心を合わせにくい指は、うまく認識できないことがあります。その際は、中心を通過させやすい指を登録してください。

- ▶ 指紋の読み取りがうまくいかない場合  
指のスライドが速すぎたり遅すぎたりした場合、正常に認識できないことがあります。画面のメッセージに従って、スライドの速さを調節してください。
- ▶ 指を突き立てたり、引っかけるようにスライドさせないでください  
指紋センサーに指のはら（指紋の中心部）が接触していなかったり、指を引っかけるようにスライドさせると指紋の読み取りがうまくいかない場合があります。

必ず、指のはら（指紋の中心部）が指紋センサーに接触するようにスライドさせてください。



(イラストは機種や状況により異なります)

▶ 指紋の読み取りがうまくいかない場合

指のスライドが速すぎたり遅すぎたりした場合、正常に認識できないことがあります。画面のメッセージに従って、スライドの速さを調節してください。

### 指紋サンプル一覧

#### 正しく読み取られた指紋



#### 読み取り時に問題のある指紋 指紋が正しく読み取れないため、登録できない場合があります。

(1) (2) (3) (4) (5)



- (1) 指を奥に置きすぎている
- (2) 指を手前に置きすぎている
- (3) 指がセンサーの右側にずれている
- (4) 指の押しかたが弱い
- (5) 指が立っている

#### 読み取れない指紋 指紋が読み取れないため、登録できません。

(1) (2) (3)



- (1) 指が乾きすぎている
- (2) 汗が多くすぎる
- (3) 指紋が磨耗している

ここで表示している指紋イメージはあくまでサンプル（例）です。  
実際に指紋センサーで表示される指紋イメージとは異なります。

# 10 FeliCa 対応リーダ／ライタ

## ■ 対象機種

FeliCa 対応リーダ／ライタ搭載モデル

## 使用上のご注意

### ■ FeliCa 対応リーダ／ライタ利用についてのご注意

- 本製品には、IC カード技術の応用により、認証を強化したパソコンのシステムを簡単に利用できる環境を提供するアプリケーション SMARTACCESS/Feel が添付されています。SMARTACCESS/Feel の設定、利用方法については、次のマニュアルで説明しています。本書とあわせてお読みください。  
各マニュアルは、添付の「FeliCa 対応リーダ／ライタソフトウェア CD」に収録されています。マニュアルの格納場所については、「FeliCa 対応リーダ／ライタソフトウェア CD」内の「Readme.txt」をご覧ください。
  - ・ SMARTACCESS/Feel 管理者用マニュアル（導入編）
  - ・ SMARTACCESS/Feel 管理者用マニュアル（機能・設定編）
  - ・ SMARTACCESS/Feel 利用者用マニュアル
- パソコン本体の修理や保守を依頼する場合は、SMARTACCESS/Feel の Windows ログオン機能を解除してください。Windows ログオン機能を解除していない場合、修理や保守ができないことがあります。Windows ログオン機能を解除するには、SMARTACCESS/Feel の動作環境設定ツールを使用して設定を変更する必要があります。
- パソコン本体の修理や保守が行われた場合には、セキュリティ機能が解除されていることがあります。その場合は環境の再構築が必要となります。添付の「FeliCa 対応リーダ／ライタソフトウェア CD」内のマニュアルをご覧になり、再設定を行ってください。
- パソコン本体に内蔵されているFeliCa対応リーダ／ライタは、鉄道の改札機などのリーダ／ライタと比べると電波強度が弱いため、FeliCa 対応 IC カードを認識できる範囲が限られます。良好な通信が保証される範囲の目安は、次のとおりです（カードの種類によって若干異なります）。
  - ・アンテナ表面からの距離は、3mm 以下
  - ・FeliCa 対応 IC カードの中心とアンテナの中心を合わせた状態から、前後左右に 10mm 以内詳しくは、「FeliCa 対応 IC カードの操作のしかた」（→ P.65）をご覧ください。

### ■ FeliCa 対応 IC カードについて

本製品には、FeliCa 対応非接触 IC カード（SMARTACCESS 専用）は添付されていません。弊社純正品「FeliCa 対応非接触 IC カード（SMARTACCESS 専用）（FMFLC-C1）」を別途ご購入ください。

なお、FeliCa 対応非接触 IC カード（SMARTACCESS 専用）は SMARTACCESS 専用のカードです。SMARTACCESS 以外のソフトウェアや、入退室管理システムなどのサービスにはご使用できません。また、FeliCa 対応非接触 IC カード（SMARTACCESS 専用）に、他のソフトウェアやサービスを追加フォーマットすることはできません。

## 概要

### ■ FeliCa とは

FeliCa は、ソニー株式会社が開発した非接触 IC カードの技術方式です。鉄道の乗車券、電子マネー、社員証・学生証、ビルの入退室などに利用されています。本パソコンでは、内蔵の FeliCa 対応リーダ／ライタを利用して、パソコンのセキュリティを向上するための環境を提供します。

### ■ FeliCa 対応リーダ／ライタの利用

FeliCa 対応リーダ／ライタを利用するするために、次のアプリケーションを使用します。

- SMARTACCESS/Feel

このアプリケーションにより、次のことが行えるようになります。

□ Windowsへのログオン機能

□ パソコンのロック・ロック解除機能

□ アプリケーションログオン機能

詳しくは、添付の「FeliCa対応リーダ/ライタソフトウェアCD」内のマニュアルをご覧ください。

## 作業の流れ

本製品を使用するまでの手順は、次のとおりです。

### ※ 重要

▶ 本項は、本パソコンや本パソコンを含むシステムを管理する方のみ、お読みください。本パソコンをお使いになるだけの方は、管理者の指示に従ってください。

#### 1 次のものを用意します。

- ・パソコン本体 (FeliCa 対応リーダ／ライタ搭載モデル)
- ・FeliCa 対応リーダ／ライタソフトウェア CD
- ・FeliCa 対応 IC カード<sup>注</sup>  
注： FeliCa 対応 IC カードは添付されていません。別途ご購入ください。

#### 2 SMARTACCESS/Feel の設定を行います。

### ※ 重要

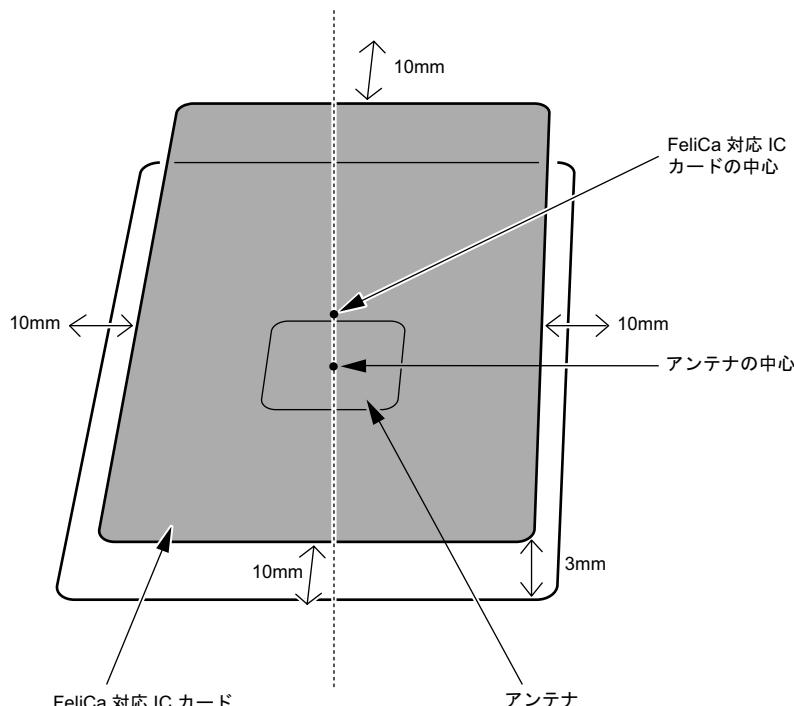
▶ SMARTACCESS/Feel はインストールされていません。  
設定する場合はパソコンの管理者にご相談ください。

## FeliCa 対応 IC カードの操作のしかた

パソコン本体内蔵されている FeliCa 対応リーダ／ライタは、鉄道の改札機などのリーダ／ライタと比べると電波強度が弱いため、FeliCa 対応 IC カードを認識できる範囲が限られます。良好な通信が保証される範囲の目安は、次のとおりです（カードの種類によって若干異なります）。

- アンテナ表面からの距離は、3mm 以下
- FeliCa 対応 IC カードの中心とアンテナの中心を合わせた状態から、前後左右に 10mm 以内

FeliCa 対応 IC カードの中心と  
アンテナの中心を合わせた状態



(イラストは機種により異なります)

### 重要

- ▶ アンテナの位置については、「各部名称」－「パソコン本体前面」(→ P.10) をご覧ください。

# 11 PC カードについて

## 取り扱い上の注意

故障を防ぐため、PC カードをお使いになるときは、次の点に注意してください。

- 温度の高い場所や直射日光のある場所には置かないでください。
- 強い衝撃を与えないでください。
- 重い物を載せないでください。
- コーヒーなどの液体がかからないように注意してください。
- 保管する場合は、必ずケースに入れてください。

### POINT

- ▶ PC カードまたはコンパクトフラッシュカードの種類によっては、同時に使用できないものがあります。お使いになる PC カードまたはコンパクトフラッシュカードのマニュアルで確認してください。
- ▶ 本パソコンでは LAN カードが使えない場合があります。
- ▶ 本パソコンでは、3.3V または 5V を使用する PC カードのみサポートしています。12V を使用する PC カードはサポートしていません。

## PC カードをセットする

### △ 注意



- PC カードをセットまたは取り出すときは、PC カードスロットに指を入れないでください。けがの原因となることがあります。

### ○ 重要

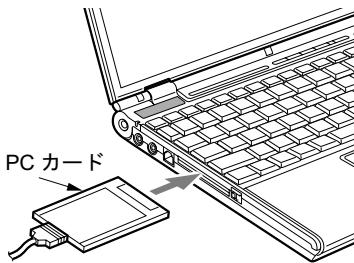
- ▶ PC カードは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまつた静電気により破壊される場合があります。PC カードを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。

### POINT

- ▶ PC カードによっては、セットするときに電源を切る必要のあるものがあります。お使いになる PC カードのマニュアルで確認してください。
- ▶ PC カードによっては、ドライバのインストールが必要なものがあります。お使いになる PC カードのマニュアルをご覧になり、必要に応じてドライバをインストールしてください。

## 1 パソコン本体左側面のPCカードスロットに、PCカードをセットします。

PCカードの製品名を上にしてPCカードスロットにしっかりと差し込みます。



### 重要

- ▶ PCカード取り出しボタンが飛び出している場合は、必ず押し込んでください。PCカード取り出しボタンが飛び出した状態でPCカードをセットすると、ボタンが中に入らなくなります。また、ボタンが破損する原因となります。
- ▶ うまくセットできない場合には一度PCカードを取り出し、上下が反対になっていないか、差し込む方向が間違っていないかを再度確認してください。また、お使いになるPCカードのマニュアルもご覧ください。
- ▶ コードやケーブルを接続して使うPCカードをお使いの場合、PCカードとコードやケーブルを接続しているコネクタ部分に物を載せたり、ぶつけたりしないでください。破損の原因となります。
- ▶ 本パソコンにはPCカードのロック機構がありません。コード付きのPCカードや、ケーブルを接続しているPCカードは、コードやケーブルを引っ張らないでください。PCカードが抜けるおそれがあります。
- ▶ PCカードの種類によっては、PCカードスロットからPCカードが飛び出した状態でセットされるものがあります。PCカードの飛び出した部分をぶつけたりしないでください。破損の原因となります。

### POINT

- ▶ PCカードによっては、「ハードウェアの安全な取り外し」が表示されないものもあります。アイコンが表示されない場合には、PCカードのマニュアルをご覧になり、確認してください。

## PCカードを取り出す

### 重要

- ▶ PCカードは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまつた静電気により破壊される場合があります。PCカードを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。

### POINT

- ▶ コードやケーブルを接続して使うPCカードを取り出す場合、PCカードのコードやケーブルを引っ張らないでください。破損の原因となります。
- ▶ PCカードを取り出す場合は、次の手順で行ってください。手順どおり行わないと、故障の原因となります。
- ▶ PCカードによっては、取り出すときに電源を切る必要のあるものがあります。PCカードのマニュアルで確認してください。

## △注意



- PC カードの使用終了直後は、PC カードが高温になっていることがあります。PC カードを取り出すときは、手順 3 の後、しばらく待ってから取り出してください。火傷の原因となることがあります。



- PC カードをセットまたは取り出すときは、PC カードスロットに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

**1** 通知領域の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをクリックします。

### POINT

- ▶ PC カードによっては、「ハードウェアの安全な取り外し」が表示されないものもあります。アイコンが表示されない場合には、PC カードのマニュアルをご覧になり、確認してください。
- ▶ 通知領域の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをクリックして表示される「ハードウェアの安全な取り外し」ウィンドウで、「停止」をクリックして PC カードを取り出さないでください。パソコン本体の動作が不安定になる場合があります。

**2** 「[PC カード] を安全に取り外します」をクリックします。

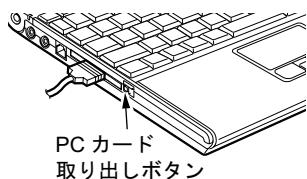
### POINT

- ▶ 「[PC カード]」には、お使いの PC カードの名称が表示されます。
- ▶ 「デバイス' 汎用ボリューム' を今停止できません。後でデバイスの停止をもう一度実行してください。」というメッセージが表示された場合は、「OK」をクリックし、PC カードにアクセスしていないことを確認した後、もう一度手順 1 からやり直してください。

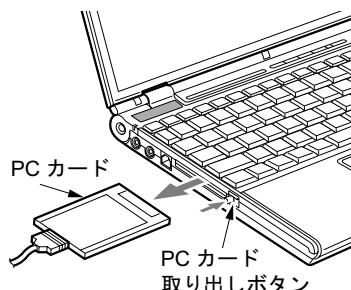
**3** 「ハードウェアの取り外し」というメッセージが表示されたことを確認します。

**4** PC カード取り出しボタンを押します。

PC カード取り出しボタンが少し飛び出ます。



**5** PC カード取り出しボタンを押し、PC カードを取り出します。



 **重要**

- ▶ PC カード取り出しボタンが飛び出している場合は、必ず押し込んでください。  
PC カード取り出しボタンが飛び出した状態でお使いになると、ボタンが破損する原因となります。

## 12 コンパクトフラッシュカードについて

### 取り扱い上の注意

故障を防ぐため、コンパクトフラッシュカードをお使いになるときは、次の点に注意してください。

- 温度の高い場所や直射日光のある場所には置かないでください。
- 強い衝撃を与えないでください。
- 重い物をのせないでください。
- コーヒーなどの液体がかからないように注意してください。
- 保管する場合は、必ずケースに入れてください。

#### POINT

- ▶ PCカードまたはコンパクトフラッシュカードの種類によっては、同時に使用できないものがあります。お使いになるPCカードまたはコンパクトフラッシュカードのマニュアルで確認してください。
- ▶ 本パソコンではLANカードが使えない場合があります。
- ▶ 本パソコンでは、3.3Vまたは5Vを使用するコンパクトフラッシュカードのみサポートしています。

### コンパクトフラッシュカードをセットする

#### △ 注意



- コンパクトフラッシュカードをセットまたは取り出すときは、コンパクトフラッシュカードスロットに指を入れないでください。けがの原因となることがあります。

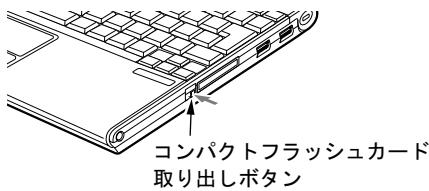
#### □ 重要

- ▶ コンパクトフラッシュカードは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまつた静電気により破壊される場合があります。コンパクトフラッシュカードを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。

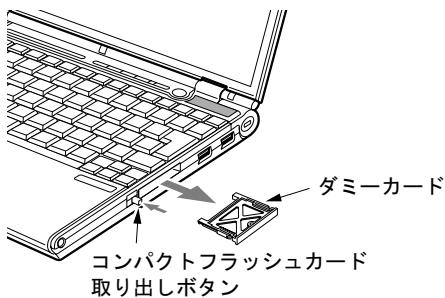
#### POINT

- ▶ コンパクトフラッシュカードによっては、セットするときに電源を切る必要のあるものがあります。お使いになるコンパクトフラッシュカードのマニュアルで確認してください。
- ▶ コンパクトフラッシュカードによっては、ドライバのインストールが必要なものがあります。お使いになるコンパクトフラッシュカードのマニュアルをご覧になり、必要に応じてドライバをインストールしてください。

- 1 コンパクトフラッシュカード取り出しボタンを押します。**  
コンパクトフラッシュカード取り出しボタンが少し飛び出します。



- 2 コンパクトフラッシュカード取り出しボタンを押し、ダミーカードを取り出します。**

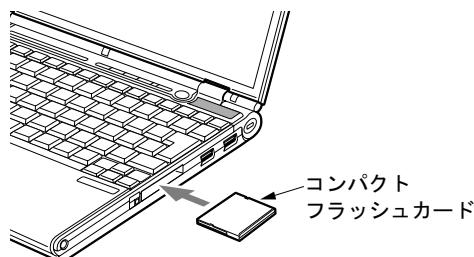


### POINT

- 取り出したダミーカードは、なくさないように保管してください。

- 3 パソコン本体の右側面のコンパクトフラッシュカードスロットに、コンパクトフラッシュカードをセットします。**

コンパクトフラッシュカードの製品名を上にしてコンパクトフラッシュカードスロットにしっかりと差し込みます。



## ◀ 重要

- ▶ コンパクトフラッシュカード取り出しボタンが飛び出している場合は、必ず押し込んでください。
- コンパクトフラッシュカード取り出しボタンが飛び出した状態でコンパクトフラッシュカードをセットすると、ボタンが中に入らなくなります。また、ボタンが破損する原因となります。
- ▶ うまくセットできない場合には一度 コンパクトフラッシュカードを取り出し、上下が反対になっていないか、差し込む方向が間違っていないかを再度確認してください。  
また、お使いになるコンパクトフラッシュカードのマニュアルもご覧ください。
- ▶ コードやケーブルを接続して使うコンパクトフラッシュカードをお使いの場合、コンパクトフラッシュカードとコードやケーブルを接続しているコネクタ部分に物を載せたり、ぶつけたりしないでください。破損の原因となります。
- ▶ 本パソコンにはコンパクトフラッシュカードのロック機構がありません。コード付きのコンパクトフラッシュカードや、ケーブルを接続しているコンパクトフラッシュカードは、コードやケーブルを引っ張らないでください。コンパクトフラッシュカードが抜けるおそれがあります。

## POINT

- ▶ コンパクトフラッシュカードによっては、「ハードウェアの安全な取り外し」が表示されないものもあります。アイコンが表示されない場合には、コンパクトフラッシュカードのマニュアルをご覧になり、確認してください。

## コンパクトフラッシュカードを取り出す

## ◀ 重要

- ▶ コンパクトフラッシュカードは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまつた静電気により破壊される場合があります。コンパクトフラッシュカードを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。

## POINT

- ▶ コードやケーブルを接続して使うコンパクトフラッシュカードを取り出す場合、コンパクトフラッシュカードのコードやケーブルを引っ張らないでください。破損の原因となります。
- ▶ コンパクトフラッシュカードを取り出す場合は、次の手順で行ってください。手順どおり行わないと、故障の原因となります。
- ▶ コンパクトフラッシュカードによっては、取り出すときに電源を切る必要のあるものがあります。コンパクトフラッシュカードのマニュアルで確認してください。

## △ 注意



- コンパクトフラッシュカードの使用終了直後は、コンパクトフラッシュカードが高温になっていることがあります。コンパクトフラッシュカードを取り出すときは、手順3の後、しばらく待ってから取り出してください。火傷の原因となることがあります。
- コンパクトフラッシュカードをセットまたは取り出すときは、コンパクトフラッシュカードスロットに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

**1** 通知領域の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをクリックします。

**POINT**

- ▶ コンパクトフラッシュカードによっては、「ハードウェアの安全な取り外し」が表示されないものもあります。アイコンが表示されない場合には、コンパクトフラッシュカードのマニュアルをご覧になり、確認してください。
- ▶ 通知領域の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをダブルクリックして表示される「ハードウェアの安全な取り外し」ウィンドウで、「停止」をクリックしてコンパクトフラッシュカードを取り出さないでください。パソコン本体の動作が不安定になる場合があります。

**2** 「[コンパクトフラッシュカード] を安全に取り外します」をクリックします。

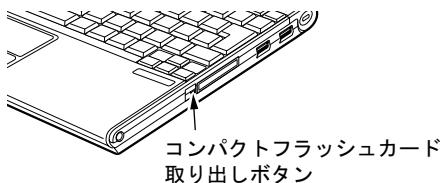
**POINT**

- ▶ 「[コンパクトフラッシュカード]」には、お使いのコンパクトフラッシュカードの名称が表示されます。
- ▶ 「デバイス'汎用ボリューム'を今停止できません。後でデバイスの停止をもう一度実行してください。」というメッセージが表示された場合は、「OK」をクリックし、コンパクトフラッシュカードにアクセスしていないことを確認した後、もう一度手順1からやり直してください。

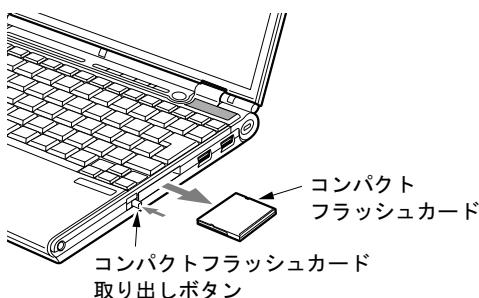
**3** 「ハードウェアの取り外し」というメッセージが表示されたことを確認します。

**4** コンパクトフラッシュカード取り出しボタンを押します。

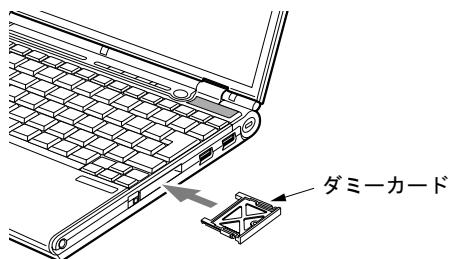
コンパクトフラッシュカード取り出しボタンが少し飛び出ます。



**5** コンパクトフラッシュカード取り出しボタンを押し、コンパクトフラッシュカードを取り出します。



- 6 ダミーカードをコンパクトフラッシュカードスロットにしっかりと差し込みます。



**重要**

- ▶ コンパクトフラッシュカード取り出しボタンが飛び出している場合は、必ず押し込んでください。  
コンパクトフラッシュカード取り出しボタンが飛び出した状態でお使いになると、ボタンが破損する原因となります。

# 13 プリンタについて

## ☞ 重 要

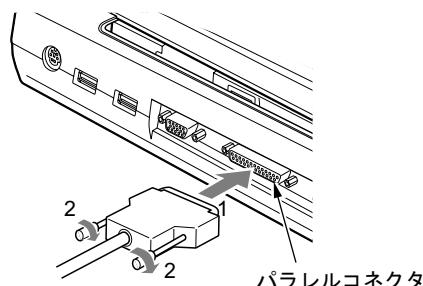
- ▶ プリンタの接続にはプリンタケーブルが必要です。プリンタケーブルは、プリンタに添付されていないことがあります。
- また、添付されているものも、コネクタの形状により接続できない場合もあります。そのような場合は、接続できるプリンタケーブルを別にお買い求めください。
- ▶ プリンタの接続方法は、プリンタによって異なります。プリンタのマニュアルをご覧ください。

## 接続について

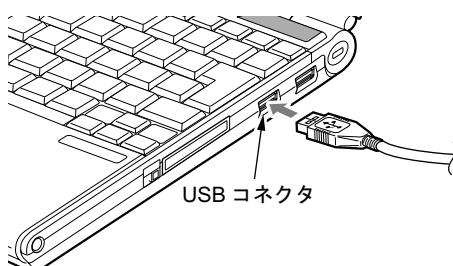
### ■ パラレルコネクタの場合

ポートリプリケータを取り付けてください。

「ハードウェア」－「ポートリプリケータを取り付ける」(→ P.50)



### ■ USB コネクタの場合



## POINT

- ▶ USB 接続のプリンタは、ポートリプリケータの USB コネクタに接続することもできます。

# 14 外部ディスプレイについて

## 接続について

本パソコンは、プロジェクタやアナログディスプレイなどの外部ディスプレイを接続することができます。

ここでは、パソコン本体左側面の外部ディスプレイコネクタに、アナログディスプレイを接続する場合について説明します。

### △警告



- 外部ディスプレイの接続／取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外してください。  
感電の原因となります。

### △注意



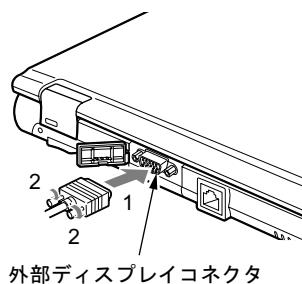
- ケーブルは、このマニュアルをよく読み、正しく接続してください。  
誤った接続状態でお使いになると、感電・火災の原因となります。また、パソコン本体および外部ディスプレイが故障する原因となります。

**1** パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します（→『取扱説明書』）。

**2** パソコン本体背面の外部ディスプレイコネクタに、ディスプレイケーブルを接続します。

コネクタは正面から見ると台形になっています。

コネクタの形を互いに合わせてしっかりと差し込み（1）、ディスプレイケーブルの左右のネジで固定します（2）。



### POINT

- ▶ 外部ディスプレイは、ポートリプリケータの外部ディスプレイコネクタに接続することもできます。ただし、ポートリプリケータ接続時には、パソコン本体の外部ディスプレイコネクタはお使いになれません。
- ▶ ポートリプリケータ接続時には、必ずパソコン本体の外部ディスプレイコネクタからディスプレイケーブルを取り外してください。破損の原因となります。

**3 アナログディスプレイにディスプレイケーブルを接続します。**

接続方法は、アナログディスプレイのマニュアルをご覧ください。

**4 アナログディスプレイの電源ケーブルを接続して、電源を入れます。****5 パソコン本体にACアダプタを取り付け、電源を入れます。** **POINT**

- ▶ 外部ディスプレイを接続後パソコン本体の電源を入れると、次のようになることがあります。

- ・パソコン本体の液晶ディスプレイと外部ディスプレイで同時に表示される

- ・「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示される

この場合は、画面の指示に従って外部ディスプレイのドライバをインストールしてください。

**6 画面の表示を切り替えます。**

【Fn】+【F10】キーを押すと、液晶ディスプレイ→外部ディスプレイ→同時表示→液晶ディスプレイ…の順で表示を切り替えることができます。また、Windowsの「画面のプロパティ」でも切り替えることができます（→『ソフトウェアガイド』の「動作環境の設定」－「表示装置の切り替え」）。

# 15 ハードウェアのお手入れ

## パソコン本体のお手入れ

### △ 警告



- 感電やけがの原因となるので、お手入れの前に、次の事項を必ず行ってください。
  - ・パソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。
  - ・プリンタなど、周辺機器の電源を切り、パソコン本体から取り外してください。

パソコン本体の汚れは、乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。

汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。また、拭き取りの際は、パソコン本体に水が入らないよう十分に注意してください。なお、シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。

## 液晶ディスプレイのお手入れ

液晶ディスプレイの汚れは、乾いた柔らかい布かメガネ拭きで軽く拭き取ってください。

### ○ 重要

- ▶ 液晶ディスプレイの表面を固いものでこすったり、強く押しつけたりしないでください。液晶ディスプレイが破損するおそれがあります。
- ▶ 液晶部分を拭くときは、必ずから拭きしてください。水や中性洗剤を使うと、液晶部分を傷めるおそれがあります。
- ▶ 化学ぞうきんや市販のクリーナーを使うと、成分によっては、画面の表面のコーティングを傷めるおそれがあります。次のものは、使わないでください。
  - ・アルカリ性成分を含んだもの
  - ・界面活性剤を含んだもの
  - ・アルコール成分を含んだもの
  - ・シンナーやベンジンなどの揮発性の強いもの
  - ・研磨剤を含むもの

## キーボードのお手入れ

キーボードの汚れは、乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。

汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。また、拭き取りの際は、キーボード内部に水が入らないよう十分に注意してください。なお、シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。

キーボードのキーとキーの間のホコリなどを取る場合は、圧縮空気などを使ってゴミを吹き飛ばしてください。なお、掃除機などを使って、キーを強い力で引っ張らないでください。

## マウスのお手入れ

### 重要

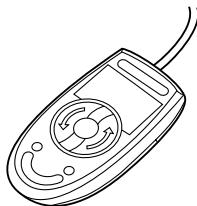
▶ カスタムメイドの選択により USB マウス、USB マウス（光学式）を添付しております。表面の汚れは、柔らかい布でから拭きします。

汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。また、拭き取りの際は、マウス本体に水が入らないよう十分に注意してください。なお、シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。

また、USB マウスのボールがスムーズに回転しないときは、ボールを取り外してクリーニングします。ボールのクリーニング方法は、次のとおりです。なお、お使いのマウスにより形状が異なります。

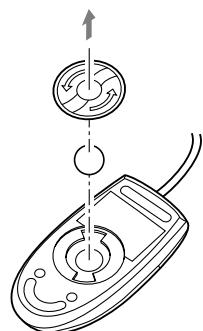
#### 1 マウスの裏ブタを取り外します。

マウス底面にある裏ブタを、矢印の方向に回して取り外します。



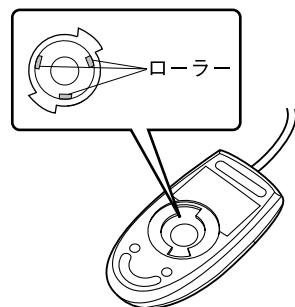
**2 ボールを取り出して、水洗いします。**

マウスをひっくり返し、ボールを取り出します。その後、水洗いして十分に乾燥させます。



**3 マウス内部をクリーニングします。**

マウス内部、および裏ブタを、水に浸して固くしぼった布で拭きます。  
ローラーは、綿棒で拭きます。



**4 ボール、裏ブタを取り付けます。**

ボールとマウスの内部を十分乾燥させたら、ボールと裏ブタを取り付けます。

## 第3章 **BIOS**

BIOSセットアップというプログラムについて説明しています。また、本パソコンのデータを守るためにパスワードを設定する方法についても説明しています。

1 BIOS セットアップとは .....	82
2 BIOS セットアップの操作のしかた .....	83
3 メニュー詳細 .....	87
4 BIOS のパスワード機能を使う .....	95
5 BIOS が表示するメッセージ一覧 .....	99

# 1 BIOS セットアップとは

BIOS セットアップとは、本パソコンの環境を設定するためのプログラムです。本パソコンご購入時は、すでに最適なハードウェア環境に設定されています。通常の使用状態では、BIOS セットアップで環境を設定（変更）する必要はありません。

BIOS セットアップの設定は、次の場合などに行います。

- 特定の人だけが本パソコンを使用できるように、パスワード（暗証番号）を設定するとき
- 起動時の自己診断（POST）で BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示されたとき

以降この章では、ハードディスクを内蔵フラッシュメモリと読み替えてください。

## 重要

- ▶ BIOS セットアップの設定項目の詳細については、BIOS セットアップ画面（→ P.83）の「項目ヘルプ」をご覧ください。

## POINT

- ▶ BIOS セットアップで設定した内容は、パソコン本体内部の CMOS RAM と呼ばれるメモリに記憶されます。この CMOS RAM は、バックアップ用バッテリによって記憶した内容を保存しています。BIOS セットアップを正しく設定しても、パソコン本体の起動時に「システム CMOS のチェックサムが正しくありません。標準設定値が設定されました。」というメッセージが表示される場合は、バックアップ用バッテリが消耗して、CMOS RAM に設定内容が保存されていないことが考えられますので、「富士通ハードウェア修理相談センター」にご連絡ください。
- ▶ 起動時の自己診断中は不用意に電源を切らないでください。  
本パソコンは、自己診断中の異常終了の回数を数えており、3 回続いた場合は 4 回目の起動時に「前回の起動が正常に完了しませんでした。」というメッセージを表示します。
- ▶ 起動時の自己診断（POST（ポスト））  
本パソコンの電源を入れたときや再起動したときに、ハードウェアの動作に異常がないかどうか、どのような周辺機器が接続されているかなどを自動的に調べます。これを「起動時の自己診断」（POST: Power On Self Test）といいます。

## 2 BIOS セットアップの操作のしかた

### BIOS セットアップを起動する

BIOS セットアップでは、すべての操作をキーボードで行います。

- 1** 作業を終了してデータを保存します。
- 2** 状態表示 LCD の内蔵フラッシュメモリアクセス表示が点灯していないことを確認し、本パソコンを再起動します。
- 3** 「FUJITSU」のロゴマークが表示され、画面の下に「[Esc] Diagnostic Screen, [F2] BIOS Setup, [F12] Boot Menu」と表示されている間に、【F2】キーを押してください。

BIOS セットアップの操作のしかたが表示されます。

BIOS セットアップ画面の各部の名称と役割は、次のとおりです。

#### メニューバー

メニューの名称が表示されます。

#### カーソル

設定する項目に合わせます。

#### 項目ヘルプ

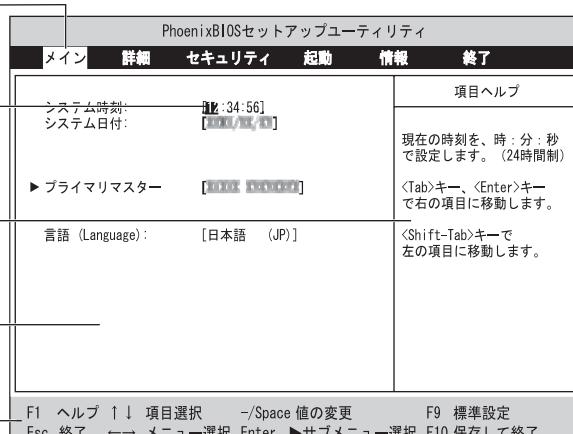
カーソルを合わせた項目の説明が表示されます。

#### 設定フィールド

各メニューで設定する項目名と設定値が表示されます。

#### キー一覧

設定時に使うキーの一覧です。



(画面はモデルにより異なります)

#### POINT

- ▶ BIOS セットアップの画面ではなく Windows が起動してしまった場合は、起動が完了するのを待って、もう一度手順 2 からやり直してください。
- ▶ 手順 3 で【F12】キーを押すと、「起動メニュー」が表示され、起動するドライブを選択することができます。また、〈BIOS セットアップを起動〉を選択すると、BIOS セットアップの「メイン」メニューが表示されます。



## 設定を変更する

ここでは一般的な操作方法を説明します。

- 1** 【←】キーまたは【→】キーでカーソルを移動し、設定したいメニューを選びます。  
選択したメニュー画面が表示されます。
- 2** 【↓】キーまたは【↑】キーでカーソルを移動し、設定したい項目を選びます。
- 3** 【Space】キーまたは【-】キーを押して、選択している項目の設定値を変更します。  
続けて他の設定項目を変更する場合は、手順1～3を繰り返してください。
- 4** 設定を保存して終了します。  
「BIOS」—「BIOS セットアップを終了する」(→ P.86)

### 重要

- ▶ BIOS セットアップは正確に設定してください。  
設定を間違えると、本パソコンが起動できなくなったり、正常に動作しなくなることがあります。  
このような場合には、変更した設定値を元に戻すか、ご購入時の設定に戻して本パソコンを起動し直してください。

### POINT

- ▶ 設定内容を変更前の値に戻す方法は、「BIOS」—「終了メニュー」(→ P.94)をご覧ください。
- ▶ 設定内容をご購入時の設定値に戻す方法は、「ご購入時の設定に戻す」(→ 『取扱説明書』)をご覧ください。
- ▶ 項目名に「▶」が付いている項目にはサブメニューがあります。  
項目名にカーソルを移動して【Enter】キーを押すと、サブメニューが表示されます。元のメニュー画面に戻るときは【Esc】キーを押します。

## 各キーの役割

設定時に使用するキーの役割は、次のとおりです。

キー	役割
【↑】キー、【↓】キー	設定する項目にカーソルを移動します。
【←】キー、【→】キー	メニュー画面を切り替えます。
【Pg Up】キー、【Pg Dn】キー	【Fn】キーと一緒に押すことで、メニュー画面が複数ページにわたる場合は、前ページ、または次ページに移動します。
【Home】キー、【End】キー	【Fn】キーと一緒に押すことで、メニュー画面の最初の項目、または最後の項目にカーソルを移動します。
【Enter】キー	▶印が付いた項目のサブメニュー画面を表示します。また、「終了」メニューなどでは、各項目の処理を行います。 設定する項目で押すと、設定値が一覧で表示されます。
【F1】キー	一般ヘルプ画面を表示します。同じキーを再度押すか、【Esc】キーを押せば閉じます。
【Alt】+【H】キー	
【F5】キー	各項目の設定を 1 つ前の設定値に変更します。
【-】キー	
【F6】キー	各項目の設定を次の設定値に変更します。
【Space】キー	
【F9】キー	標準設定値を読み込みます。
【F10】キー	現在の設定値を保存して、BIOS セットアップを終了します。
【Esc】キー	「終了」メニューを表示します。また、サブメニュー画面でこれらのキーを押すと、1 つ上のメニュー画面に戻ります。
【Alt】+【X】キー	

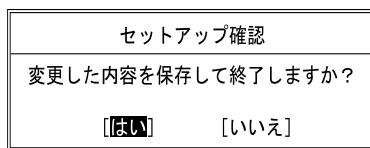
### POINT

- ▶ ここでいう【-】キーは[←]のことです。

## BIOS セットアップを終了する

変更した設定を有効にするためには、設定内容を CMOS RAM に保存しておく必要があります。次の操作を行い、設定内容を保存してから BIOS セットアップを終了してください。

- 1** 【Esc】キーを押します。  
「終了」メニューが表示されます。
- 2** 【↑】キーまたは【↓】キーを押して「変更を保存して終了する」を選択し、【Enter】キーを押します。  
次のメッセージが表示されます。



- 3** 【←】キーまたは【→】キーで「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。  
すべての設定値が保存された後、BIOS セットアップが終了し、本パソコンが再起動します。

### POINT

- ▶ サブメニューを表示している場合は、「終了」メニューが表示されるまで、【Esc】キーを 2 ~ 3 回押してください。
- ▶ 設定を変更しないで終了する場合は、「終了」メニューで「変更を保存せずに終了する」を選択して終了してください (→ P.94)。
- ▶ いったん設定内容を保存したあと、続けて他の項目を設定する場合は、「終了」メニューで「変更を保存する」を選択してください (→ P.94)。
  1. 「終了」メニューの「変更を保存する」を選択し、【Enter】キーを押します。  
「変更した内容を保存しますか?」というメッセージが表示されます。
  2. 【←】キーまたは【→】キーで「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。

### 3 メニュー詳細

#### 重要

- ▶ BIOS セットアップの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

### メインメニュー

「メイン」メニューでは、日時の設定と、ドライブやメモリの機能などの設定を行います。

#### □ システム時刻

#### □ システム日付

#### □ プライマリマスター

#### POINT

- ▶ この設定は変更しないでください。
- ▶ 「終了」メニューの「標準設定値を読み込む」(→ P.94) を実行した直後は、「プライマリマスター」の項目の自動設定が行われていません。BIOS セットアップを再起動すると、各項目が自動設定されます。

- タイプ
  - ・ CHS フォーマット
- シリンダ数
- ヘッド数
- セクタ数
- 最大容量
  - ・ LBA フォーマット
- 合計セクタ
- 最大容量
- マルチセクタ転送
- LBA モード制御
- 転送モード
- Ultra DMA モード

#### □ 言語 (Language)

#### POINT

- ▶ 設定と同時に画面表示が切り替わり、次に設定を変更するまで同じ言語で表示されます。

## 詳細メニュー

---

「詳細」メニューでは、周辺機器の設定などを行います。

### □シリアル／パラレルポート設定

#### POINT

- ▶ 「I/O アドレス」、「割り込み番号」、「DMA チャネル」は、複数のデバイスに同じ設定値を割り当てないように注意してください。同じ設定値を割り当てると、項目名の左に＊が表示されます。

- シリアルポート

- ・ I/O アドレス
  - ・ 割り込み番号
- パラレルポート
- ・ モード
  - ・ I/O アドレス
  - ・ 割り込み番号
  - ・ DMA チャネル

#### POINT

- ▶ 「DMA チャネル」は、「モード」の項目を「ECP」に設定しているときに表示されます。  
通常「DMA チャネル」は「DMA 1」に設定してください。

### □キーボード／マウス設定

- 起動時の Numlock 設定
- ホットプラグ

#### POINT

- ▶ PS/2 規格のマウスやキーボードのみ有効です。
- ▶ マウスやキーボードによっては、ホットプラグに対応していない場合があります。動作中のパソコン本体にマウスやキーボードを接続しても認識されない場合は、一度取り外し、しばらくしてからもう一度接続してください。それでも認識されない場合は、パソコン本体の電源を切るか、パソコン本体をスタンバイにして接続してください。
- ▶ ホットプラグ機能を有効にした状態で、お使いのキーボードやマウスの動作に異常が見られる場合は、ホットプラグ機能を無効にしてください。
- ▶ 「内蔵ポインティングデバイス」の項目を「手動」または「常に使用しない」に設定した場合は、ホットプラグ機能を使用できません。

- 内蔵ポインティングデバイス

### POINT

- ▶ Microsoft 社製の IntelliMouse® などのホイール機能付き PS/2 マウスは、設定が「自動」または「常に使用しない」の場合のみ使用できます。

- レジューム時の初期化

### □ ディスプレイ設定

- ディスプレイ

### POINT

- ▶ 本パソコンの起動後は、キーボード操作や「画面のプロパティ」で画面表示を切り替えることができます(→『ソフトウェアガイド』の「動作環境の設定」-「表示装置の切り替え」)。

- 全体表示

### □ その他の内蔵デバイス設定

- IDE コントローラ
- 内蔵 LAN デバイス
- 無線 LAN デバイス

### POINT

- ▶ お使いのモデルにより、「無線 LAN デバイス」は表示されません。

### □ CPU 設定

- XD ビット機能

### □ USB 設定

- レガシー USB サポート
  - ・ SCSI サブクラスサポート

### 重要

- ▶ SCSI サブクラスサポートを使用して、パソコンが起動しなくなった場合、デバイスを取り外して再起動してください。

### POINT

- ▶ FDD ユニット (USB) にセットしたフロッピーディスクから起動する場合は、「レガシー USB サポート」の項目を「使用する」に設定してください (ご購入時の設定)。

### □ 各種設定

- 電源ボタン
- LAN によるウェイクアップ
- 音量設定

## □イベントログ設定

- イベントログ領域の状態
- イベントログ内容の状態
- イベントログの表示

### POINT

▶ イベントログメッセージで、「POST エラー : nnnnnnnn nnnnnnnn」というメッセージが表示された場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」にご連絡ください。それ以外のメッセージは、本パソコンの使用には特に問題のないメッセージです。

- イベントログ
  - ・システム起動
- イベントログの消去
- イベントログのマーク

## セキュリティメニュー

「セキュリティ」メニューでは、本パソコンを特定の人だけが使用できるよう設定を行います。

### □管理者用パスワード

### □ユーザー用パスワード

### □管理者用パスワード設定

#### POINT

- ▶ 次の項目は、管理者用パスワードが設定されている場合に設定できます。
  - ・ユーザー用パスワード設定
  - ・ユーザー用パスワード文字数
  - ・起動時のパスワード
    - 自動ウェイクアップ時
    - レジューム時のキーボードロック
    - 取外し可能なディスクからの起動
    - BIOS フラッシュメモリへの書き込み
    - スマートカードによるロック
    - 所有者情報

### □ユーザー用パスワード設定

#### POINT

- ▶ 管理者用パスワードとユーザー用パスワードの両方が設定されている状態で、ユーザー用パスワードで BIOS セットアップに入ると、設定値がグレーで表示される項目があります。グレー表示される項目は、ユーザー用パスワードでは変更できません。

3  
BIOS

### □ユーザー用パスワード文字数

#### POINT

- ▶ 本項目はユーザー用パスワードで BIOS セットアップに入った場合のみ有効です。管理者用のパスワードで BIOS セットアップに入った場合は、最低文字数より少ない文字をユーザー用パスワードとして設定することができます。

### □起動時のパスワード

- 自動ウェイクアップ時

### □レジューム時のキーボードロック

#### POINT

- ▶ USB 規格の周辺機器は「レジューム時のキーボードロック」によるセキュリティの対象外になります。そのため、USB マウスなどの USB 機器はパスワードを入力しなくても使用できます。

- 取外し可能なディスクからの起動
- BIOS フラッシュメモリへの書き込み
- スマートカードによるロック

#### POINT

- ▶ 本項目は、スマートカードホルダーをセットしている場合のみ表示されます。
- ▶ 本項目を「使用する」に設定すると、次の項目が設定できなくなります。
  - ・管理者用パスワード設定
  - ・ユーザー用パスワード設定
  - ・ユーザー用パスワード文字数

#### □ ハードディスクセキュリティ

本パソコンではご使用になれません。

#### □ 所有者情報

#### POINT

- ▶ 管理者用パスワードが設定されていない場合は、「所有者情報」の各項目は表示されずが、選択できません。

- 所有者情報
- 所有者情報設定
- 文字色
- 背景色

#### □ レジューム時のセキュリティボタン

#### POINT

- ▶ 本項目は、セキュリティボタンのパスワードを設定している場合のみ使用できます。

## 起動メニュー

「起動」メニューでは、本パソコンの起動時の動作についての設定を行います。

### □ 高速起動

### □ 起動時の自己診断画面

### □ 起動メニュー

#### 重要

- ▶ 管理者用パスワードが設定されていない場合は、「起動メニュー」は表示されますが、選択できません。

### □ ネットワークサーバからの起動

### □ 起動デバイスの優先順位

- フロッピーディスクドライブ
- ハードディスクドライブ
- CD-ROMドライブ
- ネットワーク起動

#### POINT

- ▶ 利用可能な起動デバイスが、起動時の検索順序の高い順に表示されます。ただし、「ネットワーク起動」は、「ネットワークサーバからの起動」が「使用する」に設定されている場合に表示されます。なお、「ネットワークサーバからの起動」を「使用する」に設定した場合、「ネットワーク起動」の優先順位は、再起動後に設定可能となります。
- ▶ CDから起動するには起動可能なOSの入ったCDが必要となります。再起動時前に接続したCD-ROMドライブにCDをセットしてください。

## 情報メニュー

---

「情報」メニューには、BIOS セットアップやパソコン本体についての情報が表示されます。設定を変更することはできません。

**BIOS 版数**

**BIOS 日付**

**BIOS 領域**

**CPU タイプ**

**CPU 速度**

**L1 キャッシュ**

**L2 キャッシュ**

**全メモリ容量**

- メモリスロット 1 (標準メモリスロット)
- メモリスロット 2 (増設メモリスロット)

## 終了メニュー

---

「終了」メニューでは、設定値の保存や読み込み、BIOS セットアップの終了などを行います。

**変更を保存して終了する**

設定した内容を CMOS RAM に保存して BIOS セットアップを終了します。

**変更を保存せずに終了する**

設定した内容を CMOS RAM に保存しないで BIOS セットアップを終了します。

**標準設定値を読み込む**

すべての項目を標準設定値にします。

**変更前の値を読み込む**

すべての項目について、CMOS RAM から変更前の値を読み込み、変更を取り消します。

**変更を保存する**

変更した内容を CMOS RAM に保存します。

**変更を保存して電源を切る**

変更した内容を CMOS RAM に保存して電源を切ります。

# 4 BIOS のパスワード機能を使う

ここでは、本パソコンのデータを守るためにパスワード機能について説明します。

本パソコンは、他人による不正使用を防止するために、パスワードを設定することができます。パスワードを設定すると、正しいパスワードを知っている人以外は本パソコンを使用できなくなります。

## パスワードの種類

本パソコンで設定できるパスワードは次のとおりです。

- 管理者用パスワード

本パソコンをご購入になった方などが使用するパスワードです。パスワード機能を使用するときは必ず設定してください。

- ユーザー用パスワード

「管理者」以外で本パソコンをお使いになる方が使用するパスワードです。「管理者用パスワード」を設定した場合のみ設定できます。

## パスワードを設定する

パスワードの設定は、BIOS セットアップで行います。パスワードの設定方法は、次のとおりです。

### ■ 管理者用パスワード／ユーザー用パスワードを設定する

- 1 BIOS セットアップを起動します。

「BIOS」 - 「BIOS セットアップを起動する」 (→ P.83)

- 2 「セキュリティ」メニューで「管理者用パスワード設定」 (→ P.91) 、または「ユーザー用パスワード設定」 (→ P.91) を選択して【Enter】キーを押します。パスワード入力用のウィンドウが表示されます。

- 3 8 桁までのパスワードを入力します。

入力できる文字種はアルファベットと数字です。

入力した文字は表示されず、代わりに「■」が表示されます。

また、ユーザー用のパスワードの最低文字数は、「ユーザー用パスワード文字数」 (→ P.91) で設定することができます。

- 4 パスワードを入力したら【Enter】キーを押します。

「新しいパスワードを確認して下さい。」にカーソルが移り、パスワードの再入力を求められます。

- 5** 手順 3 で入力したパスワードを再度入力して【Enter】キーを押します。  
「セットアップ通知」と書かれたウィンドウが表示されます。

- 6** 【Enter】キーを押して、設定を終了します。

再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」と書かれたウィンドウが表示されます。【Enter】キーを押して、手順 3 からやり直してください。  
パスワードの設定を中止するときは、【Esc】キーを押してください。

## ■ パスワード設定後のパソコンの起動

パスワードを設定すると、設定状態によって次の場合にパスワードの入力が必要になります。

- BIOS セットアップを起動するとき
- パソコンを起動するとき
- スタンバイからリジュームするとき

### □ BIOS セットアップやパソコンの起動時のパスワード入力

パスワードの入力を求めるウィンドウが表示されたら、パスワードを入力し、【Enter】キーを押してください。

#### POINT

- ▶ 誤ったパスワードを 3 回入力すると、「システムは使用できません」と表示されて、警告音が鳴ります。この場合は、キーボードやマウスが一切反応しなくなるので、本パソコンの電源をいったん切ってから再び電源を入れ、正しいパスワードを入力してください。

### □ リジューム時のパスワード入力

パスワードを入力する画面は表示されず、状態表示 LCD に Caps Lock 表示と Scroll Lock が交互に点滅します。この状態では、フラットポイント（マウス）とパスワードを入力する以外のキーボード操作ができません。これらを使えるようにするには、本パソコンの起動時に入力したパスワードと同じパスワードを入力してください（【Enter】キーは不要です）。

ただし、USB マウスなどの USB 機器は、セキュリティの対象外になります。

#### POINT

- ▶ 正しいパスワードを入力しない限り、キーボードやフラットポイント（マウス）は使用できません。
- ▶ 「電源オプションのプロパティ」で、スタンバイからの回復時にパスワードを入力するように設定した場合は、スタンバイから回復するときに引き続き Windows のパスワードの入力も必要です。

## パスワードを忘れてしまったら

管理者用パスワードを忘れるときには、パスワード機能を解除できなくなり、修理が必要になります。設定したパスワードを忘れないように何かに書き留め、安全な場所に保管しておくことをお勧めします。なお、管理者用パスワードを忘れてしまった場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」までご連絡ください。なお、保障期間にかかるわらず修理は有償となります。パスワードの管理には充分注意してください。

### POINT

- ▶ ユーザー用パスワードを忘れた場合  
ユーザー用パスワードを忘れた場合は、修理の必要はありません。パソコンの管理者に管理者用パスワードをいったん削除してもらった後、管理者用パスワード、ユーザー用パスワードの順にパスワードを設定し直してください。

## パスワードを変更／削除する

### ■ パスワードを変更する

設定したパスワードを変更するときは、次の操作を行ってください。

- 1 BIOS セットアップを起動します。**  
「BIOS」－「BIOS セットアップを起動する」(→ P.83)
- 2 「セキュリティ」メニュー(→ P.91)で設定したいパスワードを選択して【Enter】キーを押します。**
  - ・管理者用パスワード設定
  - ・ユーザー用パスワード設定
- 3 設定してあるパスワードを入力し、【Enter】キーを押します。**  
「新しいパスワードを入力して下さい。」にカーソルが移ります。
- 4 8 衔までの新しく設定したいパスワードを入力し、【Enter】キーを押します。**  
「新しいパスワードを確認して下さい。」にカーソルが移り、パスワードの再入力を求められます。
- 5 手順 4 で入力したパスワードを再度入力して【Enter】キーを押します。**  
「変更が保存されました。」というウィンドウが表示されます。
- 6 【Enter】キーを押して、設定を終了します。**  
再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」と書かれたウィンドウが表示されます。【Enter】キーを押して、手順 4 からやり直してください。  
パスワードの設定を中止するときは、【Esc】キーを押してください。

#### POINT

- ▶ 誤ったパスワードを 3 回入力すると、「システムは使用できません」と表示されて、警告音が鳴ります。この場合は、キーボードやマウスが一切反応しなくなるので、本パソコンの電源をいったん切ってから再び電源を入れ、正しいパスワードを入力してください。

### ■ パスワードを削除する

設定したパスワードを削除するときは、「パスワードを変更する」の手順 4～5 で何も入力せずに、【Enter】キーを押してください。

#### POINT

- ▶ ユーザーがユーザー用パスワードを削除できるのは、ユーザー用パスワード文字数設定が 0 のときだけです。0 以外のときは、パスワード文字数不足のメッセージが表示されます。

# 5 BIOS が表示するメッセージ一覧

## メッセージが表示されたときは

エラーメッセージが表示された場合は、次の手順に従って処置をしてください。

### 1 BIOS セットアップを再実行します。

BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示された場合は、BIOS セットアップの、各項目を正しい値に設定してください。

それでもメッセージが表示される場合には、BIOS セットアップの設定値をご購入時の設定に戻して起動し直してください（→『取扱説明書』）。

### 2 周辺機器を取り外します。

周辺機器を取り付けている場合には、すべての周辺機器を取り外し、パソコン本体をご購入時の状態にして動作を確認してください。

それでも同じメッセージが表示される場合には、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

### 3 取り外した周辺機器を、1つずつ取り付けます。

取り外した周辺機器を1つずつ取り付けて起動し直し、動作を確認してください。

また、割り込み番号（IRQ）を使用する周辺機器を取り付けたときは、割り込み番号が正しく割り当てるよう、設定を確認してください。このとき、各周辺機器のマニュアルや、ユーティリティソフトがある場合にはそれらのマニュアルも、あわせてご覧ください。

上記の処理を実行しても、まだ同じメッセージが表示される場合は、本パソコンが故障している可能性があります。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

## メッセージ一覧

本パソコンは、自動的に故障を検出します。故障の検出は、通常 POST (→ P.82) 時に行われます。本パソコンが表示するメッセージの一覧は、次のとおりです。

### POINT

- ▶ メッセージ中の「n」には数字が表示されます。

### ■ 正常時のメッセージ

- [Esc] Diagnostic Screen, [F2] BIOS Setup, [F12] Boot Menu

起動時の「FUJITSU」のロゴマークが表示されているとき、画面の下に表示されます。このメッセージが表示されている間に【Esc】キーを押すと起動時の自己診断画面が表示され、【F2】キーを押すと BIOS セットアップが起動します。また、【F12】キーを押すと「起動メニュー」画面 (→ P.83) が表示されます。

- nnnnM システムメモリテスト完了。

システムメモリのテストが、正常に完了したことを表示しています。

- nnnnK メモリキャッシュテスト完了。

キャッシュメモリのテストが、正常に完了したことを示しています。

- マウスが初期化されました。

マウス機能が初期化され、フラットポイントが使えるようになったことを示しています。

- お待ちください ...

BIOS セットアップの起動中に表示されます。

- < F12 >キー : 起動メニュー / < F2 >キー : BIOS セットアップ

起動時の自己診断画面の下に表示されます。このメッセージが表示されている間に【F12】キーを押すと「起動メニュー」画面 (→ P.83) が表示され、【F2】キーを押すと BIOS セットアップが起動します。

### POINT

- ▶ 正常時のメッセージを表示させる場合は、「FUJITSU」のロゴマークが表示されているときに、【Esc】キーを押します。また、常に表示させる場合は、「起動」メニューの「起動時の自己診断画面」(→ P.93) の項目を「使用する」に設定してください。

### ■ エラーメッセージ

- 拡張メモリエラー。アドレス行 : nn

拡張メモリのテスト中に、アドレス nn でエラーが発見されたことを示しています。

メモリを拡張しているときは、メモリが正しく取り付けられているか、または弊社純正品かを確認してください。

それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

- キーボードエラーです。

キーボードテストで、エラーが発生したことを示しています。

電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

● キーボード接続エラーです。

キーボードテストで、接続エラーが発生したことを示しています。

テンキーボードや外付けキーボードを接続しているときは、正しく接続されているかを確認し、もう一度電源を入れ直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

● ディスクのエラーです。: ハードディスク n

ハードディスクドライブの設定に誤りがあることを示しています。

BIOS セットアップを起動し、「メイン」メニューの「プライマリマスター」の各項目が正しく設定されているか、確認してください。電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

● システムタイマーのエラーです。

システムタイマーのテストで、エラーが発生したことを示しています。

電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

● リアルタイムクロックのエラーです。

リアルタイムクロックのテストで、エラーが発生したことを示しています。

電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

● システム CMOS のチェックサムが正しくありません。- 標準設定値が設定されました。

CMOS RAM のテストでエラーが発見されたため、いったん標準設定値が設定されたことを示しています。

【F2】キーを押して BIOS セットアップを起動し、標準設定値を読み込んだあと、設定を保存して起動し直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

● 前回の起動が正常に完了しませんでした。- 標準設定値が設定されました。

前回の起動時に正しく起動されなかつたため、一部の設定項目が標準設定値で設定されたことを示しています。

起動途中に電源を切ってしまったり、または BIOS セットアップで誤った値を設定して起動できなかつたとき、3 回以上同じ操作で起動し直したときに表示されます。そのまま起動する場合は【F1】キーを押してください。BIOS セットアップを起動して設定を確認する場合は【F2】キーを押してください。

● < F1 > キーを押すと継続、< F2 > キーを押すと BIOS セットアップを起動します。

起動時の自己診断テストでエラーが発生したとき、OS を起動する前に本メッセージが表示されます。【F1】キーを押すと発生しているエラーを無視して OS の起動を開始し、【F2】キーを押すと BIOS セットアップを起動して設定を変更することができます。

● 日付と時刻の設定を確認してください。

日付と時刻の設定値が正しくありません。

設定値を確認し、正しい値を設定し直してください。

● NVRAM データが正しくありません。

NVRAM データのテストでエラーが発見されたことを示しています。

「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

● セキュリティボタン異常

電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

- サーマルセンサエラー。システムの電源が切れます。

温度制御系の設定が正しく行えなかつたことを示しています。

電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

- ファンエラー。システムの電源が切れます。

冷却用ファンのテストでエラーが発生したことを示しています。

「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

- 前回の起動中にサーマルセンサエラーが発生しました。

前回の起動時にサーマルセンサエラーが発生したことを示しています。

「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

- 前回の起動中にファンエラーが発生しました。

前回の起動時にファンエラーが発生したことを示しています。

「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

- Invalid system disk

**Replace the disk, and then press any key**

フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。

フロッピーディスクを取り出して、【Space】キーなどを押してください。

- Non-System disk or disk error

**Replace and press any key when ready**

フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。

フロッピーディスクを取り出して、【Space】キーなどを押してください。

- NTLDR is missing

**Press any key to restart**

フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。

フロッピーディスクを取り出して、【Space】キーなどを押してください。

- Remove disks or other media.

**Press any key to restart**

フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。

フロッピーディスクを取り出して、【Space】キーなどを押してください。

- Operating system not found

OS が見つからなかったことを示しています。

BIOS セットアップの「起動」メニューの設定が正しいか、指定したドライブに OS が正しくインストールされているかを確認してください。

- PXE-E61:Media test failure, Check cable

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。LAN ケーブルが正しく接続されていません。LAN ケーブルを正しく接続してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元に連絡してください。

### ● PXE-E53:No boot filename received

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバーから、起動時に必要なIP アドレスまたは boot filename を取得できませんでした。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップで「ネットワークサーバからの起動」を「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元に連絡してください。

### ● PXE-E78:Could not locate boot server

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバーがないか、正しく動作していません。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップで「ネットワークサーバからの起動」を「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元に連絡してください。

### ● PXE-E89:Could not download boot image

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバー上のブートイメージファイルが取得できませんでした。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップで「ネットワークサーバからの起動」を「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元に連絡してください。

### ● PXE-E32:TFTP open timeout

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ネットワークブートに失敗しました。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップで「ネットワークサーバからの起動」を「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元に連絡してください。

#### POINT

- ▶ 本書に記述されていないシステムエラーメッセージが表示された場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

Memo

## 第4章

# 技術情報

4

本パソコンの仕様などを記載しています。

- |                       |     |
|-----------------------|-----|
| 1 仕様一覧 .....          | 106 |
| 2 コネクタのピン配列と信号名 ..... | 109 |

# 1 仕様一覧

## 本体仕様

製品名称		FMV-TC8210
CPU 注1		超低電圧版 モバイル インテル® Celeron® M プロセッサ 383 <sup>注2</sup> 1.0GHz
キャッシュメモリ		1 次 64KB + 2 次 1MB (CPU 内蔵)
チップセット		モバイル インテル® 910GML Express チップセット
システム・バス		400MHz
メインメモリ		標準 256MB <sup>注3</sup> (PC2-4200 DDR2 SDRAM DIMM <sup>注4</sup> ) ECC なし、最大 2GB
拡張メモリスロット		× 2 (空きスロット× 1) <sup>注5</sup>
表示機能	グラフィック アクセラレータ	チップセットに内蔵
	ビデオメモリ	最大 128MB (メインメモリと共用) <sup>注6</sup>
	液晶ディスプレイ <sup>注7</sup>	12.1 型 TFT カラー 1024 × 768 ドット
	解像度／発色数	液晶ディスプレイ表示：1024 × 768 ドット／1677 万色 <sup>注8</sup> 外部ディスプレイ表示：最大 1600 × 1200 ドット／最大 1677 万色 液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示： 1024 × 768 ドット／1677 万色 <sup>注8</sup>
オーディオ機能	オーディオコントローラ	チップセット内蔵 High Definition Audio コーデック
	PCM 録音再生機能	サンプリング周波数最大 96kHz、24 ビット (再生時) <sup>注9</sup> 、 サンプリング周波数最大 48kHz、16 ビット (録音時) <sup>注9</sup>
	MIDI 再生機能	ご使用になれません
	スピーカー	ステレオスピーカー内蔵
キーボード		OADG 配列準拠 86 キー (Windows キー、アプリケーションキー付)
ポインティングデバイス <sup>注10</sup>		フラットポイント
通信機能	LAN	100BASE-TX/10BASE-T 準拠
	ワイヤレス LAN <sup>注11</sup> 規格	IEEE 802.11a (J52/W52/W53) 準拠、IEEE 802.11b 準拠、 IEEE 802.11g 準拠 (Wi-Fi® 準拠) <sup>注12</sup>
	内蔵アンテナ	ダイバーシティ方式
セキュリティ機能	セキュリティボタン	数字ボタン× 4 + Enter ボタン
	指紋センサー	スライド方式、スクロール機能付
	FeliCa 対応リーダ／ライタ <sup>注11</sup>	あり
	スマートカード <sup>注11</sup>	スマートカード + PC カード型スマートカードホルダー
盗難防止用ロック		あり

製品名称		FMV-TC8210
インターフェース	PC カード	PC Card Standard 準拠 Type I/II × 1 スロット (CardBus 対応)
	コンパクトフラッシュカード	CF+and CompactFlash Specification Revision1.4 準拠 Type I/II × 1 スロット
	外部ディスプレイ	アナログ RGB ミニ D-SUB 15 ピン × 1
	USB <sup>注13</sup>	USB2.0 準拠 × 2
	LAN	RJ-45 × 1
	オーディオ	マイク・ラインイン兼用 : φ3.5mm ミニジャック (入力 : 100mV 以下、入力インピーダンス (AC) 10kΩ 以上 (DC) 2kΩ 以上)、 ヘッドホン・ラインアウト兼用 : φ3.5mm ステレオ・ミニジャック (出力 : 1mW 以上、負荷インピーダンス 32Ω)
	ポートリプリケータ <sup>注14</sup>	専用コネクタ 80 ピン × 1
	状態表示	モノクロ液晶、アイコン表示
	外部ディスプレイ	アナログ RGB ミニ D-SUB 15 ピン × 1
	シリアル	非同期 RS-232C 準拠 D-SUB9 ピン (16550A 互換) × 1
ポートリプリケータ <sup>注14</sup>	パラレル	セントロニクス準拠 ECP 対応 D-SUB 25 ピン × 1
	キーボード／マウス	PS/2 準拠 Mini-DIN 6 ピン × 1
	USB <sup>注13</sup>	USB2.0 準拠 × 2
	LAN	RJ-45 × 1
	電源供給方式	AC アダプタ バッテリ <sup>注15</sup>
4 技術情報	バッテリ稼働時間 <sup>注16</sup> (JEITA 測定法 1.0)	約 3.5 時間 (内蔵バッテリパック (4セル))、 約 5.6 時間 (内蔵バッテリパック (L) (6セル))
	バッテリ充電時間 <sup>注17</sup>	約 3.0 時間 (内蔵バッテリパック (4セル))、 約 4.5 時間 (内蔵バッテリパック (L) (6セル))
	消費電力 <sup>注18</sup>	約 15W / 約 40W
	省エネ法に基づくエネルギー消費効率 <sup>注19</sup>	S 区分 0.000XX
	省エネ達成率	AAA <sup>注20</sup>
	外形寸法 (突起部含まず)	W268 × D229 × H31.2mm
	質量	約 1.22kg <sup>注21</sup>
	温湿度条件	温度 5 ~ 35 °C / 湿度 20 ~ 80%RH (動作時)、 温度 -10 ~ 60 °C / 湿度 20 ~ 80%RH (非動作時) (ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと)
	プレインストール OS	Microsoft® Windows® XP Embedded with Service Pack 2

本パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

#### 注について

注 1 : アプリケーションによっては CPU 名表記が異なる場合があります。

注 2 : エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能に対応しています。

注 3 : カスタムメイドの選択によっては、512MB、768MB、または 1GB の場合もあります。

注 4 : PC2-3200 の性能で動作します。

注 5 : カスタムメイドの選択によっては、空きスロットがない場合もあります。

注 6 : Intel® Dynamic Video Memory Technology (DVMT) により、パソコンの動作状態によって VRAM 容量が変化します。

注 7 : 以下は液晶ディスプレイの特性です。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

- 液晶ディスプレイは非常に精度の高い技術で作られておりますが、画面の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります（有効ドット数の割合は 99.99% 以上です。有効ドット数の割合とは「対応するディスプレイの表示しうる全ドット数のうち、表示可能なドット数の割合」を示しています）。

- 本製品で使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。

- 長時間同じ表示を続けると残像となることがあります。残像は、しばらく経つと消えます。この現象を防ぐためには、省電力機能を使用してディスプレイの電源を切るか、スクリーンセーバーの使用をお勧めします。

- 表示する条件によってはムラおよび微少な斑点が目立つことがあります。

注 8：グラフィックアクセラレータが出力する最大発色数は 1677 万色ですが、液晶ディスプレイではディザリング機能によって、擬似的に表示されます。

注 9：使用できるサンプリングレートは、ソフトウェアによって異なります。

注 10：カスタムメイドの選択によっては、USB マウス、USB マウス（光学式）が添付されていることがあります。

注 11：カスタムメイドの選択によっては搭載されておりません。

注 12：Wi-Fi® 準拠とは、ワイヤレス LAN の相互接続性を保証する団体「Wi-Fi Alliance」の相互接続性テストに合格していることを示しています。

注 13：
 

- すべての USB 規格対応のオプション機器について、動作保証するものではありません。
- 外部から電源を取らない USB 機器を接続するときの消費電流の最大容量は、1 ポートにつき 500mA です。詳しくは USB 機器のマニュアルをご覧ください。

注 14：カスタムメイドの選択によっては添付されていません。

注 15：カスタムメイドの選択により、内蔵バッテリパック（4 セル）か内蔵バッテリパック（L）（6 セル）のいずれかが搭載されています。

注 16：社団法人 電子情報技術産業協会の「JEITA バッテリ動作時間測定法（Ver1.0）」(<http://it.jeita.or.jp/mobile/index.html>)。なお、本体のみ、省電力制御あり、満充電の場合。ただし、実際の稼働時間は使用条件により異なります。

注 17：電源 OFF 時またはスタンバイ時。装置の動作状況により、充電時間が長くなることがあります。

注 18：
 

- 動作時の最小消費電力（Windows 起動直後の消費電力）／最大消費電力です。  
また、AC アダプタ運用時の消費電力です。
- 電源 OFF 時の消費電力は、約 1W 以下（満充電時）です。  
なお、電源 OFF 時のエネルギー消費を回避するには、AC ケーブルの電源プラグをコンセントから抜いてください。

注 19：スタンバイ時（充電なし。AC アダプタを含む）。なお、エネルギー消費効率とは、省エネ法で定める測定方法により測定した消費電力を省エネ法で定める複合理論性能で除したものです。

注 20：省エネルギー基準達成率の各製品欄にあるアルファベットは「A は 100% 以上、AA は 200% 以上、AAA は 500% 以上」に達していることを示します。

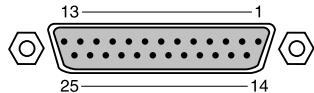
注 21：カスタムメイドでワイヤレス LAN を選択した場合の質量は、次のとおりです。

ワイヤレス LAN 非搭載時（標準）	1.22kg
ワイヤレス LAN 搭載時（カスタムメイド）	1.24kg

その他、カスタムメイドの選択によって、質量が異なる場合があります。

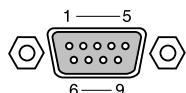
## 2 コネクタのピン配列と信号名

### ■ パラレルコネクタ (D-SUB25 ピン、メス)



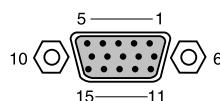
ピン番号	信号名	方向	説明
1	*STROBE	入出力	ストローブ
2	DATA 0	入出力	データ 0
3	DATA 1	入出力	データ 1
4	DATA 2	入出力	データ 2
5	DATA 3	入出力	データ 3
6	DATA 4	入出力	データ 4
7	DATA 5	入出力	データ 5
8	DATA 6	入出力	データ 6
9	DATA 7	入出力	データ 7
10	*ACK	入力	アクノリッジ
11	BUSY	入力	ビジー
12	PE	入力	用紙切れ
13	SELECT	入力	セレクト
14	*AUTOFD	出力	自動送り
15	*ERROR	入力	エラー
16	*INIT	出力	初期化
17	SLCTIN	出力	選択
18 ~ 25	GND	—	グランド

### ■ シリアルコネクタ (D-SUB9 ピン、オス)



ピン番号	信号名	方向	説明
1	CD	入力	キャリア検出
2	RD	入力	受信データ
3	TD	出力	送信データ
4	DTR	出力	データ端末レディ
5	GND	—	グランド
6	DSR	入力	データセットレディ
7	RTS	出力	送信要求
8	CTS	入力	送信可
9	RI	入力	リングインジケート

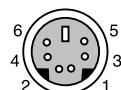
## ■ 外部ディスプレイコネクタ（ミニ D-SUB15 ピン、メス）



ピン番号	信号名	方向	説明
1	RED	出力	赤出力
2	GREEN	出力	緑出力
3	BLUE	出力	青出力
4	NC	—	未接続
5 ~ 8	GND	—	グランド
9	+5V	—	電源注
10	GND	—	グランド
11	NC	—	未接続
12	SDA	入出力	シリアルデータライン
13	H SYNC	出力	水平同期信号
14	V SYNC	出力	垂直同期信号
15	SCL	入出力	シリアルクロックライン

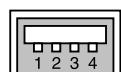
注： MAX 300mA

## ■ 拡張キーボード／マウスコネクタ（PS/2 タイプミニ DIN6 ピン）



ピン番号	信号名	方向	説明
1	KDATA	入出力	キーボードデータ
2	M DATA	入出力	マウスデータ
3	GND	—	グランド
4	+5V	—	電源
5	K CLK	入出力	キーボードクロック
6	M CLK	入出力	マウスクロック

## ■ USB コネクタ



ピン番号	信号名	方向	説明
1	VCC	—	ケーブル・電源
2	— DATA	入出力	—データ信号
3	+ DATA	入出力	+データ信号
4	GND	—	ケーブル・グランド

# 索引

## A

AC アダプタ表示 ..... 21

## B

BIOS セットアップ ..... 82  
  -各キーの役割 ..... 85  
  -起動する ..... 83  
  -終了する ..... 86  
  -設定を変更する ..... 84

BIOS セットアップの操作のしかた ..... 83

BIOS のパスワード機能を使う ..... 95

## C

Caps Lock 表示 ..... 22

## D

DC-IN コネクタ ..... 14, 20

DC-IN コネクタ接続防止フラップ ..... 20

## E

Enter ボタン ..... 23

## F

Felica 対応リーダ／ライタ ..... 63

FeliCa 対応リーダ／ライタアンテナ ..... 11

## L

LAN コネクタ ..... 16, 20

## N

Num Lock 表示 ..... 22

## P

PC カード ..... 66

PC カードアクセス表示 ..... 22

PC カードスロット ..... 15

PC カード取り出しボタン ..... 15

POST ..... 82

## S

Scroll Lock 表示 ..... 22

## U

USB コネクタ ..... 13, 19, 110  
USB マウス ..... 35

## あ行

液晶ディスプレイ ..... 10  
  -お手入れ ..... 78

## か行

外部ディスプレイ ..... 76  
外部ディスプレイコネクタ ..... 16, 20, 110  
拡張 RAM モジュールスロット ..... 17  
拡張キーボード／マウス  
  コネクタ ..... 19, 110  
  管理者用パスワード ..... 95  
  キーボード ..... 11, 38  
    -お手入れ ..... 79  
  起動時の自己診断テスト ..... 82  
  起動メニュー ..... 93  
  コネクタのピン配列と信号名 ..... 109  
  コンパクトフラッシュカード ..... 70  
  コンパクトフラッシュカードアクセス  
    表示 ..... 22  
  コンパクトフラッシュカード  
    スロット ..... 13  
  コンパクトフラッシュカード取り出し  
    ボタン ..... 13

## さ行

指紋センサー ..... 11, 60  
周辺機器 ..... 28  
終了メニュー ..... 94  
詳細メニュー ..... 88  
状態表示 LCD ..... 11, 21  
情報メニュー ..... 94  
シリアルコネクタ ..... 20, 109  
数字ボタン ..... 23  
スピーカー ..... 11  
セキュリティ表示 ..... 22  
セキュリティボタン ..... 11, 57

セキュリティメニュー ..... 91  
接続コネクタ ..... 20

## た行

テンキーボード ..... 41  
テンキーモード ..... 40  
電源表示 ..... 21  
電源ボタン ..... 11  
盗難防止用ロック取り付け穴 ..... 13  
ドラッグ ..... 31, 34

## な行

内蔵バッテリパック ..... 18  
内蔵フラッシュメモリアクセス表示 ..... 21  
内蔵ワイヤレス LAN アンテナ ..... 12

## は行

排気孔 ..... 17  
パスワード (BIOS) ..... 95  
　－削除する ..... 98  
　－設定する ..... 95  
　－変更する ..... 98  
パソコン本体のお手入れ ..... 78  
バッテリ ..... 43  
　－LOW バッテリ状態 ..... 46  
　－異常表示 ..... 45  
　－運用する ..... 44  
　－交換する ..... 48  
　－残量表示 ..... 45  
　－充電する ..... 43  
　－取り扱い上の注意 ..... 47  
バッテリ残量表示 ..... 21  
バッテリ充電表示 ..... 21  
バッテリ装着表示 ..... 21  
バッテリランプ ..... 14  
パラレルコネクタ ..... 20, 109  
フラットポイント ..... 11, 30  
プリンタ ..... 75  
ヘッドホン・ラインアウト兼用端子 ..... 14  
ポインティングデバイス ..... 30  
ポイント ..... 31, 33  
ポートトリプリケータ ..... 19, 50  
　－取り付ける ..... 50  
　－取り外す ..... 51  
ポートトリプリケータ接続コネクタ ..... 17  
ポートトリプリケータ取り外しレバー ..... 20

## ま行

マイク・ラインイン兼用端子 ..... 14  
マウス ..... 33  
　－お手入れ ..... 79  
メインメニュー ..... 87  
メッセージ (BIOS) ..... 99  
メモリ ..... 52

## や行

ユーザー用パスワード ..... 95

## ら行

ラッチ ..... 10

## わ行

ワイヤレス LAN アンテナ ..... 12  
ワイヤレス LAN 表示 ..... 21  
ワイヤレススイッチ ..... 16

---

**FMV-TC8210**

**ハードウェアガイド**  
**B6FH-8201-01-00**

**発行日 2005年10月**  
**発行責任 富士通株式会社**

---

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。